変革の
2023年

朝鮮民主主義人民共和国・外国文出版社
2024

変革の2023年

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2024

まえがき

2023年は、朝鮮民主主義人民共和国の尊厳と国力が万邦に宣揚され、未曽有の奇跡的な成果が多発的にもたらされた偉大な転換の年、変革の年であった。

2023年に朝鮮人民は、厳しい国難を愛国の力をもって頑強に乗り越え、社会主義建設の各分野で注目に値する成果を成し遂げた。

灌漑建設と農業の総合的機械化の実現で意味のある新たな前進をもたらし、まれに見る豊作を収めた。

首都と地方に新しい街、新しい住宅が次々と建てられ、自立経済の中身を充実させる誇らしい創造物が相次いで完工されて、人民に裕福かつ文化的な生活を享受させうる明るい展望が開かれた。

共和国の核武力建設政策が国家の基本法として採択され、わが国家の不敗の力、勝利の伝統を継承する意志を誇示する政治・文化行事が盛大に行われ、対外関係発展の新しいページが開かれて、共和国の対外的地位が一層向上した。

国防科学発展及び兵器システム開発5カ年計画の主要課題が成功裏に遂行され、朝鮮式の威力ある核攻撃手段と新しい戦略兵器システムの開発・導入に急進的な跳躍をもたらすことによって、敵対勢力に共和国の核戦略武力の威力をはっきりと刻印させた。

実に2023年は、偉大な転換と変革がもたらされた意義深い年であった。

目　次

1 飛躍の進路を明示

　朝鮮労働党が自主、自存の旗印の下に各時期、各段階において明確な進路を明示することによって、朝鮮の社会主義は上昇発展の道をたどっている。
　朝鮮労働党は、共和国創建75周年と祖国解放戦争勝利70周年を迎える2023年を、社会主義発展の道程と共和国の歴史に大きく記される転換の年、変革の年に輝かせ、第8回党大会の提示した膨大な目標を立派な実体に転換させるための新しい路線と実践綱領を示した。
　こうして、朝鮮人民は2023年に強大さと先進性、近代性の結合された国家発展の新たな転換期を力強く切り開くことができた。



党大会の決定貫徹のための実践綱領

朝鮮労働党中央委員会第8期第6回、第7回、第8回総会をはじめとする重要な党会議と朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第9回会議では、第8回党大会の提示した戦略的課題を完遂するための実践綱領が示された。

新しい実践綱領の真髄は、政治と経済、文化の各方面においてそれまでの闘争過程で成し遂げられた成果と経験を一層強固なものにし、党大会と党中央委員会総会が下達した計画と当面の課題を寸分の狂いもなく貫徹して立派な実体に転換させるべきだということであった。

闘争課題はまず、核武力を質的・量的に急速に強化することであった。

共和国が社会主義国家として存在する限り、自主と社会主義を抹殺しようとする帝国主義者の圧制の核が地球上に存在する限り、核保有国の地位を絶対に変更したり譲歩してはならず、むしろ核武力を持続的に一層強化しなければならないというのは、歴史と現実が教える真理であり、朝鮮労働党と政府が下した厳正な戦略的判断であった。

闘争課題はまた、反帝・自主的な国々の先頭に立って革命的原則、自主的芯を確固と堅持すると共に、米国と西側の覇権戦略に反旗を翻した国々との連帯をより一層強めていくことであった。

そして、経済活動と人民生活問題の解決に実質的な変化をもたらすことであった。

党大会の示した5カ年計画を完遂する上で一番切実な課題は、人民経済発展12の重要目標をはじめとする経済建設目標を達成することであった。

闘争課題はまた、社会主義文化部門で決定的な改善をもたらすことであった。

科学と教育、保健医療をはじめとする社会主義文化部門に明確かつ決定的な改善をもたらすのは、5カ年計画期間に必ず達成すべき闘争目標であった。

党大会と党中央委員会総会で決定された国家科学技術発展戦略と計画を成功裏に実行し、国の教育構造、教育内容と方法を先進教育が行えるように質的に改善し、人民的な保健医療制度の優越性が高く発揮されるように全般的な保健医療土台を高いレベルで強化するための事業を確実に推し進めなければならなかった。

文学・芸術と出版・報道、スポーツ部門で、共和国の発展ぶり、人民の愛国的熱意と革命的気概のさらなる高揚に役立つ誇らしい革新的成果を収めるようにすべきであった。

党大会の決定貫徹を目指した課題を成功裏に遂行するための基本方途はまず、国家社会生活の各分野で革命的規律と共産主義的気風、革命的活動気風を確立することであった。

また、人民の代表、国政の主人である最高人民会議代議員の役割を最大に強めることであった。

新しい実践綱領は何よりも、主体的力を全面的に強化し、その威力を高く発揮させて継続革新、継続前進していくための方略を示す革命的な闘争綱領であった。

社会主義建設を促進する最善の方策は、主体を強化し、主体の威力を高めるところにある。歴史的な使命感を自覚し、思想的・精神的に奮起した人民大衆は絶対に大勢の変化に微動だにせず、いかなる困難にも屈しない。

新しい実践綱領は、幹部と勤労者の政治意識、責任意識の向上、共産主義的国風と発展志向的な創造方式、革命的な活動気風の確立、国家の中央集権的規律の強化、全人民的な愛国運動伝統の継

承、人民の代表、国政の主人である最高人民会議代議員の献身的奮闘を党大会の決定貫徹のための基本要因としている。

2023年に朝鮮人民が党大会と党中央委員会総会の決定貫徹のための闘争に総決起することによって、経済建設、文明建設をはじめとする各方面で堂々と自負できる鼓舞的で前進的な目覚しい成果を収めた現実は、主体を核とする革命戦略である新しい闘争綱領の正当性をはっきりと実証している。

新しい実践綱領はまた、激変する形勢に機敏に対処し、挑戦と難関を積極的に打開するための方略を示す科学的な闘争綱領であった。

党大会の決定貫徹のための闘争は、増大する厳しい挑戦と難関を乗り越え、いささかの躊躇もなしに膨大な目標達成へ邁進しなければならない苦難に満ちた闘争であった。

極度の狂気に浮かされて「拡大抑止力」の強化を喧伝するアメリカ帝国主義と大韓民国一味の軍事的冒険と反動的攻勢は、わが国家の安全環境と発展利益を厳重に脅かし、甚大な自然災害と持続される経済困難もやはり挑戦的な実体となっていた。

新しい実践綱領は、核武力を質的・量的に急速に強化するという思想、農業を支配的目標とする人民経済発展12の重要目標達成に関する思想をはじめ、主導権を握り、キーポイントに総力を集中しながら前進を阻む挑戦と難局を飛躍の有利な機会として発展させうる現実的で革新的な方略を明示していた。

2023年に朝鮮労働党と人民が、厳しい状況の下でも核戦争抑止力の強化において飛躍の全盛期を確実に開き、農業部門で豊作を収め、自立経済の中身を充実させる意味ある成果を達成したのは、適時的な方略と名案で党大会の決定貫徹のための闘争を勝利へと導く新しい闘争綱領の正当性を力強く実証した。

農業の発展方略

2023年2月26日から3月1日まで行われた朝鮮労働党中央委員会第8期第7回総会での結語『今年の農業で提起される当面の課題と農業発展の展望目標について』は、農業を立派に営み、農業生産で根本的な変革を起こすための農業発展方略を明らかにした。

農業発展方略の真髄は、「全国が奮い立って農業生産で根本的変革を起こそう！」というスローガンを高く掲げて全党、全国、全人民が総がかりで当年の穀物生産目標を成功裏に達成し、近い将来に国の農業を凶作のない、安全に発展できる着実な土台を築き上げなければならないということであった。

結語では何よりも、農業を立派に営み、農業生産で根本的な変革を起こすための課題が示された。

まず、穀物生産目標を達成する闘争に全党、全国、全人民を総動員し、当面の営農事業に総力を集中することであった。

また、農業の安定的な発展を裏付けることであった。

現存の灌漑施設を復旧・整備し、灌漑面積をさらに増やす問題が強調された。

営農物資を適時に提供し、各種の農業機械と部品を多く作って農村に送り、海面干拓や新しい土地開墾を通じて耕地面積を引き続き増やすようにした。

また、農業委員会と農業科学院、気象局がその役割を責任を持って果たすことであった。

次に、農業を立派に営み、農業生産に根本的な変革をもたらすための基本的方途が示された。

それは道・市・郡の指導機関と各農場の役割を高めると共に、全国的に農村住宅建設を本格的に推し進め、農業部門に対する党的指導を強化し、農村の党活動を改善することであった。

2 変革の実体

　2023年に朝鮮人民は、自力更生、刻苦奮闘の革命精神、堅忍不抜の闘争力を発揮して経済建設の各部門で目覚しい成果を収め、誇らしい実体を次々と出現させた。
　農業部門では豊作を収め、首都と地方には新しい市街、新しい住宅が立ち上がった。
　経済発展の双柱である金属工業と化学工業部門が大高揚進軍の前列で力走し、電力、石炭、機械、採掘、林業、鉄道をはじめとする全般的経済部門で素晴らしい成果を達成した。
　敵対勢力の極悪な制裁・封鎖と対決策動の中で自力で勝ち取ったこれら全ての成果は、自立経済の底力、強力な発展潜在力の力強い誇示であった。



農業の根本的な飛躍

2023年は、農業部門が新たな革新、大胆な創造、絶え間ない前進の時代相を作りながら立ち上がった前進の年、変革の年であった。

党と国家の最大の関心と支援が集中した中、田野ごとに豊作を収め、灌漑建設が大々的に行われて農業生産土台を構築する上で転機が開かれたばかりでなく、1万余台の農業機械が農村に送られ、農業機械部門の近代化が急速に推進された。

農業部門で困難な食糧問題を解決できる保証をもたらした飛躍的な発展ぶりは、2023年に成し遂げられた最も驚異的な成果であった。

例年にない大豊作

農業生産での成果はまず、国家穀物生産目標を超過遂行したことであった。

国の最大の農業道である黄海南道（ファンヘ）で穀物生産計画を超過遂行し、平安南道（ピョンアン）の全般的な農村で高い穀物生産実績を記録した。

2023年の農業生産での成果はまた、これまで立ち後れていた多くの地域、単位が高い収穫を上げたことであった。

黄海南道で一番遅れをとっていた白川（ペチョン）郡域久道（ヨックド）農場がヘクタール当たり1トン以上の穀物を増収して穀物生産計画を超過遂行し、地力が低くて農業生産が振るわなかった温泉（オンチョン）郡甑岳（ツンアク）農場でも小麦生産計画を195パーセントに超過遂行し、20トンの愛国米を国家に献納した勢いで最高収穫年度を突破し、ヘクタール当たり平均1.2トンの穀物を増収した。

春季が遅く始まる気象気候条件のため、全ての営農工程が遅れるのは避けられないと見なしていた咸鏡（ハムギョン）北道の各農場が既成の慣例を

破って10月中に収穫を完了し、国家穀物買付けを100パーセント完了した。特に、冷害に津波被害まで重なって毎年穀物生産計画を半分も遂行できなかった金策（キムチェク）市竜図（リョンド）農場では、これまでヘクタール当たり3トンの収穫も得られなかった低収穫地で2倍以上の収穫を上げたのをはじめ、ヘクタール当たり平均1.5トンの穀物を増収した。

この他にも、咸鏡南道で立ち後れていた咸興（ハムフン）市富民（プミン）農場でヘクタール当たり2トンの穀物を増産して最高生産年度を突破し、数十トンの籾米を愛国米として献納したのをはじめ、それまで穀物生産で遅れをとっていた多くの農場、作業班が奮発して2023年の農業で目立つ成果を上げた。

ひどい自然災害に見舞われた安辺（アンビョン）郡梧渓（オゲ）農場と月浪（ウォルラン）農場が穀物生産計画を100パーセント遂行しながらも100余トンの愛国米を献納したのをはじめ、田野ごとに豊作を収めた。

10月8日、白川郡域久道農場で全国の初の年間決算分配集会が行われ、次いで10月下旬から各地の農村では、年間の穀物生産計画を完



豊かな田野



農楽舞が広げられた決算分配場

遂した喜びに満ちて決算分配集会が次々と行われた。

各地の決算分配場では「豊年の歌」の歌声が高らかに響き渡り、楽しい農楽舞を踊る農業勤労者の顔には喜びと歓喜が満ちあふれた。一年の農業を誇り高く総括し、分配を受けた各地の農業勤労者は、毎年豊作をもたらす決意を固めた。

2023年の穀物生産で成し遂げられた成果は、農業で根本的な変革を起こす最も決定的な解決策の一つは、国の穀物生産構造を変え、稲と小麦の栽培を強く推し進めるという党政策の貫徹にあるということも実証した。

黄海南道の早生の穀物生産総括でトップの座を占めた長淵(チャンヨン)郡を見ても、以前はいくら努力してもトウモロコシをヘクタール当たり2～3トンしか収穫できなかった畑で小麦、大麦の豊作を収め、早生の穀物だけで年間の国家穀物買付け計画を超過遂行した作業班もある。

灌漑システムの整備・補強

2023年、朝鮮労働党中央委員会第8期第7回総会の提示した農業発展方略に従って国の灌漑システムを立て直すための本格的な取り組みが進められ、この過程で国の灌漑建設史に記される変革的成果が成し遂げられた。

灌漑システムを完備する上で成し遂げられた成果はまず、2023年に計画された灌漑建設目標が達成されたことであった。

20余万ヘクタールの灌漑システムと康翎(カンリョン)湖の淡水化工事、海岸防潮堤の永久化工事、中小河川の浚渫などは、党中央委員会総会の提示した2023年の闘争目標であった。

2023年に全党、全国、全人民が立ち上がって、干害地域を基本に6万余ヘクタールの畑灌漑網をはじめ20余万ヘクタールの灌漑システムを一新させた。わずか2カ月余りの間に2万4000余キロの灌漑水路の補修と1万2000余の地下水施設の建設及び能力拡張、1500余の灌漑施設の建設及び補修、畑灌漑のための2400余キロの配管工事が完了し、3000余の揚水場が新設された。

黄海南道の農業生産で重要な意義を持つ康翎湖の淡水化工事と水路工事が完了し、康翎湖から康翎郡、甕津(オンジン)郡への灌漑用水の保障が可能な水路が完工した。

黄海南道と平安南道、平安北道で海岸防潮堤の永久化工事、海岸防潮堤の補修課題が質的に遂行されて不備な区間の基礎がしっかり固められ、堅固な城壁のように永久化された海岸防潮堤が構築された。

このほか、1600余キロの中小河川の浚渫と約2000キロの堤防補修が計画通りに進められた。

灌漑システムを完備する上で成し遂げられた成果はまた、清川(チョンチョン)江—平南(ピョンナム)灌漑水路が完工したことである。

2016年2月に着工した清川江—平南灌漑水路工事は、清川江にダムを築き、126万4500余立方メートルの掘削と67万1000余立方メートルの土量処理、15万8000余立方メートルのコンクリート打込み、土水路と水路トンネル工事、50余の各種の構造物の建設などを含む膨大な工事であった。

数年間にわたる清川江—平南灌漑水路工事が2023年6月29日に竣工した。

灌漑システムを完備する上で成し遂げられた成果はまた、朝鮮の大規模な自流式水路建設史で6番目となる黄州（ファンジュ）キンドン水路工事が完工したことである。

2020年6月に着工した黄州キンドン水路建設は、400余万立方メートルの岩盤掘削と土量処理、11余万立方メートルのコンクリート打込みを行って約20の水路トンネルと520余の各種の構造物、用水潜管からなる数十里の水路を建設する大自然改造工事であった。

黄州キンドン水路工事の完了によって、国の西部地区にどんな大干ばつが襲っても安全に農業生産を持続的に発展させうる今一つの大規模灌漑システムが構築された。

2023年の灌漑建設の成果によって、干害及び浸水被災地と国の基本穀倉地帯で農業を盛り立て、農業を安定的に発展させうる確実な保証がもたらされた。

2023年に康翎湖の淡水化工事と水路工事が完了して用水の不足した甕津、康翎地域の田畑に灌漑用水を円滑に保障できるようになったのは、国の基本穀倉地帯である黄海南道の農業発展に少なからぬ寄与をしたことになる。

清川江—平南灌漑用水路工事の完工によって、穀物の増産を図るようになったばかりでなく、延豊（ヨンプン）湖地区の風致が一層美しくなった。

黄海北道に自流式の数十里の黄州キンドン水路が建設されて、穀倉地帯である黄州郡と燕灘（ヨンタン）郡の田野が生命水のあふれる沃土に、自

然の変動にかかわりなく安全な収穫が得られる豊饒な大地に変わるようになった。これと共に、毎年、多くの揚水用電力と揚水設備を使用しなくても膨大な面積の田畑灌漑を実現して穀物と野菜、果物生産を増やすようになった。

平安南北と平安北道、黄海南道の海岸防潮堤が永久的に構築されて、西海岸の干拓地農場で浸水被害を防ぐことが可能になった。

国の多くの地域で灌漑システムが一新されて、農村でいかなる災害性異常気象にも対処できる物質的・技術的土台が一層強化され、沃野千里に生命水があふれるようになり、同年の農業でそのおかげを十分にこうむった。

農村での満足な作柄は、2023年の灌漑建設における成果の変革的意義をそのまま実証した。

そして、全国の農村へ血筋のように広がる灌漑システムは、農業勤労者にいかなる気候変化も十分に克服し、多収穫を得ることができるという信念と勇気を与えた。

灌漑建設における2023年の成果によって、新時代の農村革命綱領の旗を高く掲げて国の全般的な灌漑システムを早期に完成できる貴重な土台が築かれた。

党中央委員会第8期第7回総会は、農村振興を強く進めるために、2025年までに整備・補強・完成すべき田畑の灌漑システム目標を提示した。

2023年は灌漑建設の新しい歴史が始まった転換の最初の年であった。初年の課題から正確に実行されてこそ、より確固たる信念を持って最終目標の達成に向けて進むことができるのである。

人民と人民軍将兵は試練と難関を乗り越え、田野ごとに立派な灌漑網を設けた。

この過程で中央と各道・市・郡に強力な灌漑建設工事指揮組と推

進組が設置され、灌水・排水システムの確立に必要な揚水機、電動機、変圧器などの設備とセメント、鋼材など建設資材を優先的に保障できる条件も十分に整えられた。

地元の特性に合わせて設計を立派に行える陣容が補強され、全ての施工課題を遜色なく遂行できるように建設者の技術・技能水準も一段と向上した。

特に、勤労者と軍人建設者の間で近い将来に国の灌漑システムを完全に一新させることができるという信念が百倍に強まり、愛国的熱意が非常に高揚した。

灌漑建設で収められた全ての成果と経験には、貴い教訓と献身の努力が凝縮されており、これを足場にして再び跳躍すれば、次の段階の闘争目標も十分に達成し、ひいては国の全般的な灌漑システムを完全に実現できるということを示した。

国の農業を安定的で持続的な発展の軌道に確固と乗せる壮大な大自然改造事業を、わずか3年の間に終えられる豊かな経験と強固な土台、確実な保証をもたらしたことに、2023年の灌漑建設成果の重要な意義がある。

強力に推進された農村機械化

農村機械化の実現に引き続き拍車をかけるのは、農業生産の物質的・技術的土台をしっかり固め、農業勤労者を骨の折れる労働から解放するために、朝鮮労働党が一貫して重視する問題である。

2023年に農村振興を急速に推し進めるための全人民的な闘争が日増しに高揚する中、農村機械化の実現でも大切な成果が収められた。

その成果はまず、全国の農場に多くの農業機械が生産・供給されて、田野ごとに機械化のうなりが高らかに響き渡ったことである。

金星（クムソン）トラクター工場をはじめ多くの工場、企業で生産した各種の

農業機械が各農場に集中輸送された。

軍需工業部門の工場でも5種3100余台の農業機械を生産して農村に送ることによって穀物の増産に寄与した。

農村の機械化における成果はまた、農業機械工業部門を近代的に改造する事業が力強く推し進められたことであった。

金星トラクター工場の幹部と労働者たちは、第2段階の改造・近代化を積極的に推し進めながら主要生産工程のオートメ化を基本的に実現し、トラクターの性能を改善するための集団的技術革新運動を力強く展開して、コストを引き下げながらも実用的な能率と美的価値を備えたトラクターを製作できる土台を構築した。工場では高効率の設備を新たに製作・設置し、設備の近代化を持続的に進めて生産性と精度を高めた。

定州（チョンジュ）トラクター部品工場が改築され、清津（チョンジン）トラクター部品工場で耕運機だけでなく各種の原動機を生産できる土台が築かれ、海州（ヘジュ）農業機械工場で伝動装置を実用的に改造し、エッジ生産工程も新設して小型稲収穫機のロット生産を確実に保証するなど、農業機械部門



の工場の改造・近代化が力強く推進された。

2023年の農村機械化で成し遂げられた成果によって、農業の総合的機械化を実現するという党政策の生命力が農業生産の実践ではっきりと実証された。

2022年に第一歩を踏み出した農業の総合的機械化を完成する闘争が、2023年には全国的な規模に広がり、全国の農村に近代的な農業機械が大々的に送られて農業生産に大いに寄与した。

2023年の春季から農場に多くの高速田植え機と農業機械の修理に必要な数十種の予備部品が供給されてしろかきと田植えが最適期に終わった。新型の高速田植え機は従来の田植え機より速度と作業能率が2倍も高く、作業の精度が十分に確保された高効率の農業機械である。

特に、東・西海岸の主要穀倉地帯に農薬散布用ドローンが提供されて7分間に1ヘクタールの面積に農薬を施すことができるようになった。

全国の農場に移動式稲総合脱穀機と移動式トウモロコシ総合脱穀機、小型稲収穫機が大々的に供給されて、稲、トウモロコシの収穫と脱穀を以前より1週間以上も早く終える成果が達成され、小麦・



麦播種機のフル稼働で秋麦のまきつけが最適期に完了した。

2023年の農村機械化で上げられた成果によって、農業機械の生産を一層拡大・発展させうるしっかりした保証がもたらされた。

2023年に愛国的な増産闘争を展開して数千台の農業機械を生産した軍需工業部門の労働者たちの闘争気風を見習うための熱風が全国の農業機械生産単位にみなぎる中、労働者たちの勢いが高揚し、大量の農業機械を生産できる経験と土台が築かれた。

新型の農業機械生産を開始した多くの単位が、設計と製作、資材保障をはじめ一つ一つの工程を経ながら、また他の単位の成果を学びながら大切な経験を積み、集団的技術革新運動を力強く展開する過程で農村の具体的な実情と需要に合う効率的で良質の農業機械を思い通りに生産できる科学技術的土台も築いた。

近代的な農業機械をロット生産できる新しい生産工程が確立され、設備の元来の性能を回復させるための事業が積極的に進められ、当該のジグや装備も整えられるなど農業機械生産の土台が円滑に築かれた。

壮大な住宅建設

2023年は、朝鮮の建設史において工事量が一番多い年、スケールの大きな住宅建設が展開された年であった。

平壌(ピョンヤン)市5万世帯住宅建設が強力に進められ、数万世帯の農村住宅が新たに建設され、検徳(コムドク)地区が山岳峡谷都市、文化的な鉱山都市に様変わりした。

国家の発展潜在力と文明の水準を誇示しながら建設された人民の新しい街、新しい住宅は、国難の中でも人民の福祉増進のために全てを尽くす朝鮮労働党の人民的施策によって生まれた時代の創造物である。

新時代の平壌繁栄期

平壌市1万世帯住宅建設が始まって以来、朝鮮では、毎年2月には住宅建設着工の発破音が響き、4月には竣工の歓呼の声が上がる。

平壌市5万世帯住宅建設は、人民が文化的な生活を思う存分享受する社会主義楽園を一日も早く打ち建てるために朝鮮労働党第8回大会で決定された重大事項であり、朝鮮労働党が構想し推進している基本課題の中の第一の目標である。

平壌市5万世帯住宅建設の3番目の年である2023年に、平壌は今一度その姿を一新した。

まず、和盛(ファソン)地区第1段階1万世帯住宅の建設が完了し、第2段階の建設が力強く推し進められて、この地区に新しい都市区画のモデルが新たに生まれた。

和盛地区第1段階1万世帯住宅建設は、平壌市住宅展望目標遂行の

2番目の工事であると同時に、この地区に新しい都市区画を形成するための第1段階の建設である。

和盛地区には、首都建設の展望計画に従い、数万世帯分の住宅と公共建築、サービス施設が立ち並ぶ壮大な市街が立ち上がり、新しい住民行政区域が生まれるようになった。

2023年にその第1段階の課題が実現して、和盛通りという文明の別天地が繰り広げられ、人民の幸福の笑い声が高らかに響き渡った。

双塔建築様式の40階建て住宅をはじめ、多様でユニークな建築美を誇る超高層・高層マンションと公共建築、サービス施設が便利で調和の取れるように配された和盛通りは、造形芸術性と相互性、連結性、実用性が高いレベルで保障された新しい都市区画のモデルである。

和盛地区の第1段階工事についで第2段階工事が展開され、首都建設の繁栄期を象徴するもう一つの壮大かつ華麗な建築群が姿を現した。

また、平壌市郊外の大平(テピョン)地区に新しい住宅区画が立ち上がり、首都の建設史に誇るに足る一ページを記した。

全てを人民の福利に徹底的に服従・志向させていく朝鮮労働党の崇高な志に支えられて、大平地区の住宅建設が平壌市5万世帯住宅建設のように国家的な重要建設対象に定められ、かつてなく膨大な課題が提起される中でも中断することなく推進されて、人民に新居入りの喜びを与えた。

大平地区の特色ある新しい建築群は、多層・高層住宅が多様な形式で調和をなし、住民の便益を最大限保障できるように、学校と診療所、各種サービス施設を完備した。

首都建設で収められた成果はまた、平壌の北の関門である西浦(ソポ)地区に社会主義発展と未来を象徴する新しい市街、前衛(チョンイ)通りが立ち上がったことである。

朝鮮労働党は、2023年度の平壌市1万世帯住宅建設とは別途に、首都平壌の北の関門区域に4000余世帯分の住宅を打ち建てて一つの特色ある市街を形成する重要な対象建設を社会主義愛国青年同盟と白頭山(ペクトゥサン)英雄青年突撃隊に一任した。

前衛通りの建設は、60ヘクタールの敷地面積に80階建て、60階建てをはじめとする超高層マンションと多様な形式の高層・多層住宅が統一的な調和をなして一つの壮大な住宅区画を形成する膨大な建設対象である。

青年たちの怒涛のような気概と献身的な努力により、2023年に住宅骨組工事が基本的に終わり、内外の壁塗りとタイル張り、公共建築及び施設の建設、区画インフラ工事などが立体的に行われて、前衛通りはその壮大な実体を明確に披露した。

首都の建設における変革的成果は、敬愛する金正恩(キムジョンウン)総書記の賢明な指導がもたらした貴い結晶体である。



完工なった和盛地区第1段階の住宅

金正恩総書記は、ときには執務室で、ときには建設現場を見て回りながら、人民に50年、100年後にも遜色のない立派な新市街を与えるためにあらゆる心血を注いだ。

乾式仕上げの比重を高めて都市の美化で近代的な味わいをよりよく活かす問題、全ての給食・商業・便益サービス施設を住宅区画内に整え、幹線道路と支線道路をつないで住民の便益を図る問題をはじめ、金正恩総書記が自ら検討して一つ一つ完成させた和盛地区第1段階住宅の形成案だけでもおよそ1630余件にのぼる。

2023年2月、首都市民の生活に実質的かつ根本的な変化をもたらす今一つの荘厳な建設である和盛地区第2段階1万世帯住宅建設の着工式に参加して自ら発破のボタンを押した金正恩総書記は、数回にわたって数百件の設計形成案も指導し、いろいろな問題に対していちいち対策を立てて、工事が成功裏に推し進められるよう導いた。

金正恩総書記の指導は、特色のある前衛通りと、立派に立ち上がった大平地区住宅にもこもっている。

前衛通りの建設を自ら発起し、着工式に出向いて感動的な演説で青年たちを励ました総書記は、全ての単位で前衛通りの建設に動員された青年突撃隊の活動を積極的に後押しするようにした。

大平地区の住宅区画も、住民の生活上の不便を一日も早くなくすために工事が中断することなく進められるように導いた総書記の指導によって立ち上がった高貴な結晶体である。

首都の建設で収められた誇るに足る成果は、軍民建設者と青年たちの熱烈な愛国闘争がもたらした貴い結実である。

全ての建設者は、首都平壌の建設史に今一つの意義深い里程標を記す大建設場で日ごとに偉勲と革新を生み出した。

2022年に立ち上がった松花（ソンファ）通りのほとんど3倍もある150余ヘクタールの広い敷地に百数十万平方メートルの延べ建築面積を持つ数百棟の超高層・高層マンションと公共建築、サービス施設を建設しなければならない和盛地区第1段階の建設は実に膨大な工事であったが、建設者たちは任された工事課題を日程通りに推し進めた。2000世帯分の住宅建設が追加されたときにも、軍民建設者たちは工事を力強く推し進めて、和盛地区第1段階の建設と共に成功裏に完工する奇跡を生み出した。

前衛通りの建設場に勇躍駆け付けてきた10余万人もの青年たちも、工事の速度を早めて朝鮮青年の気概を余すところなく誇示した。

大平地区の住宅建設者たちも、献身的に努力して新しい建築群を打ち建てた。

2023年に首都の建設で収められた変革的成果は、首都平壌が人民の幸福と社会主義文明の開化する人民の理想都市に変貌を遂げる日は遠くないという信念を抱かせた。

2022年12月に行われた党中央委員会第8期第6回総会は、党大会が示した首都建設目標を繰り上げて遂行するために、2023年には前年よりさらにスケールを大きくして1万数千世帯分の住宅を建設することを決定した。

2023年に行われた和盛地区第2段階1万世帯住宅建設の着工式と西浦地区新街建設の着工式、そして和盛地区第1段階1万世帯住宅の竣工式と大平地区住宅の竣工式は、人民との約束は天が崩れ落ちても無条件やり遂げる朝鮮労働党の厳粛な意志をはっきりと示した。

人民は首都の建設で収められた変革的成果を実感しながら、労働党万歳、社会主義万歳を声高らかに叫び、一層壮大かつ華麗に様変わりし、人民の万福が永遠に満ちあふれる祖国の明日への確信をさらに固めた。

「平凡な勤労者が素晴らしい住宅の主人になりました」「新しい

市街が建設されるという話を聞くたびに、いつになったら私もそんな家で住めるのだろうかと思ったのが昨日のようなのに、このようにモダンな家の住人になりました」「見れば見るほど素晴らしい、素敵だという言葉しか出ません。来年に立ち上がる新しい住宅はまたどれほど素晴らしいことでしょう。考えてみるだけでも胸がいっぱいになります」、これは新しい住宅の主人だけではなく、全国の人民が上げる感激の声であった。

2023年に首都の建設で収められた変革的成果はまた、万難を排して上昇発展の時間表通りに前進し飛躍を遂げる朝鮮の剛勇な気概と尽きない底力を今一度実証した。

大建設事業は、莫大な人的・物質的・技術的潜在力を要する壮大な創造活動であるため、国家の力と潜在力を見せる縮図だと言える。

今日、平壌市5万世帯住宅の建設場は社会主義建設の新たな高揚期、激変期を象徴する主な地域となっている。

実際、経済全般を盛り立て、人民の生活を向上させるための活動が全面的に繰り広げられて莫大な資金と労働力が必要なときに、壮大な大建設事業を、それも1、2年ではなく、数年間も続けるというのは言うほどに容易なことではない。

しかし、朝鮮労働党と国家はいかなる試練と困難に直面しても、住宅の建設は瞬時も遅らせることができないという固い決心と意志をもって、前年より一層スケールが大きく首都の建設を展開した。

建設を通じて首都の面貌を今一度変えただけでなく、厳しい試練と困難の中でも共和国の前進と闘争がいかに上昇し発展しており、いかに勢いよく拡大しているかをはっきりと実証した。

より素晴らしい創造物が絶えず立ち上がり、新時代の平壌繁栄期は絶え間なく続くであろう。

増える幸福のすみか

全国の全ての農村を裕福で文化的な社会主義の理想郷にするのは、朝鮮労働党の遠大な構想であり、農村建設政策である。

新時代の農村革命綱領に従って農村住宅建設が本格的に始まった前年について、2023年にも、国の津々浦々に近代的美感に合いながらも地元の特性が活かされる文化住宅が数多く立ち上がって、日ごとに様変わりする社会主義農村の飛躍的な発展相をはっきり示した。

成果はまず、農村文明の新たな姿が映り、実用性と造形芸術化が高いレベルで保障された農村住宅が次々と建てられて、年中新居入りの慶事が相次いで広げられたことであった。

2023年に入って最初の月から平安南道、黄海北道、咸鏡北道、咸鏡南道の複数の農村が変貌を遂げたのをはじめ、年中全国的に数万世帯分の農村住宅が完工して農業勤労者たちに新居入りの喜びを与えた。

農村固有の特色を活かしながらも、自然地理的条件と農業勤労者の便益保障に合致するように多様で独特な様式で建てられた文化住宅は、社会主義農村の発展ぶりを見せる農村文明の縮図である。

平壌市と平安北道、咸鏡北道をはじめとする複数の道の市・郡で、計画された農村住宅の建設を完了した。

また、農村住宅をより多く、より立派に建てることのできる新たなモデルが各方面で創造された。

平安北道雲山（ウンサン）郡と咸鏡南道金野（クムヤ）郡で、資材節約型工法を導入して少ないセメントをもって建設の質も保障しながら住宅を建設するモデルを創造した。

そうして、毎年国家から各市・郡に供給される1万トンのセメントをもってより多くの住宅を建設するのが可能になった。

定平(チョンピョン)郡で自らの建設陣と建材生産土台を強化するモデルが創造された。

農村建設は中長期的な事業であり、引き続き拡大される条件の下で、市・郡ごとに自らの建設陣と建材生産拠点を強固に整えるのは、2023年に切実な課題として提起された。

定平郡では、施工指導幹部と技能工、除隊軍人などで建設陣を質的・量的に拡大・強化し、地元の原料源に依拠する大能力の仕上げ建材生産工程を新設し、既存の建材生産拠点の能力も大幅に拡張した。

定平郡の経験を一般化する過程で、各道・市・郡が自力で建設陣と建材生産土台を着実に、将来を見通して強化するための活動が積極化し、肯定的な結実をもたらした。

熙川(ヒチョン)市に園林緑化のモデルが創造されて、全国の農村を住宅だけでなく園林景観においても農村文明が立派に実現した理想村に作り変える展望が開かれた。

泰川(テチョン)郡に共同畜舎が試験的に建設されて、全国的な方式講習が行われた。

農村住宅を建設するとき共同畜舎をきちんと作れば、入居した農業勤労者たちが文化的な環境に合わせて住宅の管理をよくしながらも、家畜の飼育や堆肥の生産もできるようになる。

新しく作られた共同畜舎には獣医防疫室と衛生通過室があり、畜舎ごとに自然水を利用する給水システムが導入されていた。そして、住民の要求に従って豚とヤギ、鶏、ウサギをはじめとする各種の家畜を飼育できるようになり、家畜の排泄物を処理して多くの堆肥を生産できる条件も備わっている。

農場員の生活上の便益と利害関係に合わせて共同畜舎を作るモデルが創造されたことにより、農村を住みよく働くのも楽しい裕



福かつ文化的な地域にするための活動で今一つの貴重な経験が創造された。

2023年に農村住宅の建設で収められた成果は、党の農村建設構想を一日も早く立派な実体に転換させようとする建設者と全人民の高い愛国心と堅忍不抜の努力によってもたらされたものである。

前年の農村住宅建設を通じて大きく成長した農村建設者たちは、2023年に高くなった建設計画を遂行するために徹夜作業を行った。

進んだ単位が立ち後れた単位を助ける集団主義気風が全国各地の農村住宅建設場にみなぎり、たとえ建設者ではなくても、数多くの勤労者が愛国心を抱いて建設場を労力的に、物質的に支援した。

関連部門でも住宅建設に必要な資材と器具・工具を十分に保障するための生産闘争を力強く展開して、地方の原料に依拠して生産した仕上げ建材の利用率を高めたことをはじめ、農村住宅建設を計画

通りに推進させることに大いに寄与した。

不足するものが多く条件も不利であったが、労働者階級は、各市・郡に1万トンのセメントを生産・供給することによって、農村が変わる新時代を開く上でその本分を全うした。

農村住宅の建設で収められた成果は、農業勤労者に幸福で文化的なすみかをもたらすことによって、彼らの愛国熱、闘争熱を高めた。

前年についで2023年1月から、各地では新しく建設された農村住宅の新居入りを祝う集会が毎日、毎月行われた。

新居に移った農場員をはじめ全ての農業勤労者の熱意はさらに高揚し、農民の生活秩序と習性、生活様式と構造に変化が起きるようになった。

このように素晴らしい住宅がわが家だとはよく信じられない、今も家に入るときは、これが本当に私の家なのかどうかとわが目を疑うようになる、私はこの家の主人だと堂々と言えるだろうかと考え



新築なった農村住宅

ることがたびたびある、私たちのように恵まれた農場員はこの世にいないだろう、これが幸福のすみか、素晴らしい仙境村から響く農業勤労者の感謝の声であり、その恩情に多収穫をもって報いる熱意に満ちている彼らの一致した心情である。

農村住宅の建設で収められた成果により、その建設を引き続き拡大していける土台が一層強固になった。

農村住宅の建設のための初年度の活動過程で市・郡建設単位の労働力と技術陣、物質的手段を補強し、仕上げ建材の生産能力を備えなければならない切実さはさらに強まった。

咸鏡南道では、成川江（ソンチョンガン）タイル工場に年間数十万平方メートルのタイル及び衛生陶器生産工程を整え、平安北道ではその地域で多く栽培される葦を利用した繊維板生産工程を整えた。咸鏡北道や黄海北道でも道自体の力で鏡城（キョンソン）タイル工場と景岩（キョンアム）タイル工場をはじめとする建材生産拠点を改造・近代化すると共に、各市・郡で地方原料に依拠する仕上げ建材の品目と生産量を増やし、その質を高めるよう



にしたことをはじめ、全国的に建材生産土台を強める上で明確な前進が見られた。

特に、「農村振興の新時代をわれわれの建材で！」というテーマで行われた「各道建材展示会―2023」は、各道で地域的特性に即して建材生産の国産化、仕上げ建材の品質向上のための過程で収められた成果と経験を互いに共有・交流し、地方建設、農村建設を積極的に推し進める上で重要な契機となった。

建材生産土台を強化すると共に、各道で農村建設指揮を受け持った幹部の実務水準を高めるための旋風が巻き起こり、各市・郡で農村住宅建設者の技術・技能水準を向上させるための活動も活発に繰り広げられた。

これは、農村住宅の建設を各地域が自力で本格的に推し進めることのできる強力な保証をもたらしたことになる。

検徳地区の山岳峡谷都市

労働者階級の大集団が住んでいる検徳地区を、万人が羨む史上初の山岳峡谷都市に整えることは、朝鮮労働党が打ち出した重要建設政策の一つである。

そうして、国の大規模鉱物生産拠点である検徳地区は、従前の面影を完全に一新している。

摩天嶺（マチョン）の険しい山並みに沿ってほぼ600ヘクタールの敷地面積に2万5000世帯の特色のある住宅と公共建築、産業建物を建てなければならない検徳地区の鉱山都市の建設は、その規模と工事量においても、条件の不利な点においても、実に膨大で困難な建設対象である。

しかし、人民軍軍人の英雄的闘争により、3年の間に端川（タンチョン）市の金谷（クムゴル）1洞、金谷2洞、金谷3洞、大興（テフン）2洞、白金山（ペックムサン）洞、探査（タムサ）洞、銭山（トンサン）洞、金山（クムサン）洞の深い峡谷に沿って、近代性と文化性、多様性が具現された1万

8000余世帯の住宅が建てられた。

人民軍軍人は不屈の攻撃精神と人民への献身的奉仕精神を発揮して、住宅の建設で連日集団的革新を起こし、2023年だけでも8000余世帯の住宅を新たに建設する偉勲を立てた。

こうして検徳地区は、竜陽（リョンヤン）鉱山から検徳鉱業連合企業所を経て大興青年英雄鉱山に至る数里もの山岳峡谷に、優雅でありながらも独特な形式を誇る1階建てや低層・多層、段々式住宅が調和をなして立ち並んだ山岳峡谷都市、文化的な鉱山都市に様相を一新した。

検徳地区に新しい鉱山都市が立ち上がり、検徳の労働者階級はより安定した文化的な生活を享受することができるようになった。

検徳地区は険しい山岳地帯に位置しているだけに、他の地域に比べて大水や台風の被害をよりひどく受け、そのつど被害の痕跡をなくすための復旧活動が積極的に行われた。

以前、自然災害を被るたびに新しい住宅を建てたり、山間部の郡に小規模の1階建ての住宅だけを密集させて建てていた消極的で臨時的な観点から脱して、新世紀の要求にふさわしい新しい住宅を建設して、検徳の労働者階級に安定した文化的な生活を提供しようとする朝鮮労働党の雄大な構想に従い、人民軍の軍人建設者たちは険しい山岳峡谷地区に、いかなる自然の大動乱にもびくともしない素晴らしい鉱山都市、労働党時代の興隆と文明を象徴する山間都市を建設した。

軍人建設者たちは、今後いかなる大水や台風にも影響されないように河川の川床ざらいと石張りを行い、山崩れの危険性のある道路や鉄道の区間に対する擁壁工事をコンクリートで行い、設計案に反映された通りに1階建て、低層・多層・高層住宅を調和が取れるように建設した。

次に、新しい山岳峡谷都市を打ち建てることによって、チュチェ

建築の新たな境地を切り開いた。

この10余年間、朝鮮の建築は毎年、一つの市街と匹敵する大規模の建設対象を打ち建てる過程で飛躍的に発展した。

設計家と建設者たちは、都市建設と農村建設、産業建設と文化施設建設分野においてチュチェ建築の新しい基準、モデルとなる立派な建築物を次々と打ち建てることによって、建設の繁栄期を持続させうる貴重な経験と土台を築いた。

特に、2022年にチュチェ建築の傑作だと自負できる普通江（ポトンガン）川岸段々式住宅区を建設する過程で、以後、山地が多い国の実情に合わせて自然起伏をそのまま利用する新しい建築様式と工法を創造し、全国に一般化させうる立派な経験を積んだ。

見違えるほど変わっている検徳地区は、1階建て、低層・多層住宅と段々式住宅が適切に組み合わされ、公共建築、産業建物が峡谷に沿って調和が取れるように配置された、史上初の山岳峡谷都市である。

山岳峡谷都市の建設は、険しい山並みに沿って一つの都市を建設する建築の新しい境地を切り開かなければならない事業である。

検徳地区における山岳峡谷都市の建設は、今後壮大に繰り広げられる地方建設の新しいモデル、貴重な経験となるであろう。

労働党時代の興隆と文明を象徴する労働者階級の新しい都市、史上初の山岳峡谷都市が完工する日はさほど遠くない。

自立経済を充実させる創造物

2023年の経済活動の中心的課題は、全般的部門と単位の生産を活性化しながら、党大会で決められた整備補強計画を基本的に遂行することである。

2023年に朝鮮人民は、国家経済の安定的発展を図り、人民の生活向上に実質的に資することのできる立派な創造物を打ち建てた。

竜城（リョンソン）機械連合企業所の労働者階級は、党中央委員会第8期第6回総会の決定貫徹に奮起し、性能の高い大型コンプレッサーの生産を力強く推し進めた。

金策製鉄連合企業所に省エネ型酸素熱法溶鉱炉が建設され、黄海製鉄連合企業所で新しい中周波誘導炉の部門別試運転が成功裏に行われ、茂山（ムサン）鉱山連合企業所に粗砕用コーンクラッシャーが新設され、長距離ベルトコンベヤーが改造された。茂山—清津間長距離精鉱輸送パイプラインの1万余メートル区間に対する交替工事が完了し、殷栗（ウンリュル）鉱山の西海里（ソヘリ）分鉱山が開発されて、金属工業の自立的土台が一層強化された。

大興青年英雄鉱山に高質マグネシアクリンカー生産システムが確立し、12月5日青年鉱山結晶グラウバー塩生産工程と順川（スンチョン）化学連合企業所の栄養液肥料工場が自力更生の創造物として建てられ、北部地区の炭田に新型の褐炭低温乾留工程、タール加工工程が設けられた。

各火力発電所で数千もの火力タービン羽根と数十台ものボイラー、タービン発電機の大補修を円滑に行い、西頭水（ソドゥス）発電所、水豊（スプン）発電所をはじめとする水力発電所で数十キロメートルに達する水路トンネルと数十台の発電機の大補修、ダム補強工事を早期に終え、江原（カンウォン）道で平康（ピョンガン）軍民発電所と洗浦（セポ）軍民発電所の建設を基本的に終える成

果を収めた。

自立経済を充実させる一つ一つの創造物は、整備補強戦略の正当性と生命力を実証し、人民に新たな信念と楽観を与えた。

新しい酸素熱法溶鉱炉

2023年に金策製鉄連合企業所の労働者階級は、自力自強の旗印を高く掲げて新しい省エネ型酸素熱法溶鉱炉を建設することによって、チュチェ鉄の生産土台を強化し、経済全般を活性化できる確固たる保証をもたらした。

新しい酸素熱法溶鉱炉は、冶金技術と乾燥技術を統合して、高温の余熱とガスをもって鉄精鉱と石炭を乾燥・予熱させることによって、燃料をはるかに節約しながらもチュチェ鉄を大量に生産できる効率的な溶鉱炉である。

新型の酸素熱法溶鉱炉は、自力更生の革命精神を体質化した金属工業部門の労働者階級の献身的闘争によってもたらされた誇るべき創造物である。

既存の酸素熱法溶鉱炉の建設に比べ作業量は1.5倍に達し、20余の対象を建設しなければならない新型の省エネ型酸素熱法溶鉱炉の建設工事は、現行の生産と並行しなければならない膨大なものであった。

金属工業部門の労働者階級は、膨大な基礎工事と数千トンの鋼鉄構造物の製作を短期間に成功裏に行い、既存の観念にこだわることなく、斬新なアイデアと胆大な実践によって3次元設計作成方法を導入することにより、2～3年はかかると言われていた重要対象設備の設置をわずか6カ月の間に終え、エキスパンダー、蓄冷器、分離器壁板など数十台もの設備の組立を高いレベルで完了した。

金策製鉄連合企業所の労働者階級は、輸入資材の代わりに地方原料をもって数千平方メートルの断熱煉瓦を生産し、専門単位でのみ生産できるとされていた精鉱乾燥炉、廃ガス除塵機をはじめとする設備も自らの技術陣で製作・完成した。

科学者・技術者突撃隊員たちは、自らの技術で金属工業の発展を主導していく野心と胆力を持って、浮遊予熱系統と微粉炭吹込み系統に合理的な重力弁と装入物下降角度、微粉炭輸送方法をはじめとする研究成果を実情に合わせて取り入れることによって、酸素熱法溶鉱炉の完工の確固たる科学技術的保証をもたらした。

新しい酸素熱法溶鉱炉の完工によって、金属工業の自立性を強化し、国の鉄鋼材の需要を円滑に充足させうる確実な保証がもたらされた。

新しい酸素熱法溶鉱炉の完工は、金属工業のチュチェ化を完成するという党政策の正当性を実践によって証明した。

金属工業部門の労働者階級は、厳しい闘争過程を通じて自らの力と技術で朝鮮式の鉄生産システムを確立し、コークスによる製鉄法に終止符を打った。

チュチェ鉄の生産システムを確立したことは一つの革命ではあるが、その経済的効率と安定性を保障できずには、現実で効を奏することができなかった。

金策製鉄連合企業所の労働者階級は、朝鮮のチュチェ鉄生産方法は大砲でスズメを捕るも同然だと皮肉っている敵と、小さな困難を前にしておじけづき、国境外に目を向けて自立路線に懐疑的な態度を取る動揺分子に鉄槌を下す思いで頑強な闘争を展開し、朝鮮式のより効率的な酸素熱法溶鉱炉を建設した。

このような労働者階級と知識人の大集団がいるがゆえに、金属工業部門は国の総領工業としての威力をさらに高く轟かせるであろう。

殷栗鉱山の西海里分鉱山

2023年、黄海製鉄連合企業所の原料を保障する上で重要な役割を果たす殷栗鉱山の西海里分鉱山が開発されて、金属工業部門の生産土台がより強化された。

黄海製鉄連合企業所は、生産潜在力が大きく、技術陣も強固である。しかし、それまで殷栗鉱山が鉄鉱石を円滑に保障できなかったため、生産に大きな支障を受け、人民経済の各部門で求められる鉄鋼材を円滑に保障できずにいた。

朝鮮労働党は、屈指の冶金基地である黄海製鉄連合企業所の生産の正常化に必要な鉄鉱石を円滑に保障するため、殷栗鉱山の西海里分鉱山を開発する課題を示した。

西海里分鉱山の開発を5カ年計画期間に金属工業部門で遂行すべき整備・補強目標の一つとして定め、敷地の選定から設計、労働力と資金の保障に至るまで全ての問題を解決した朝鮮労働党の指導は、分鉱山の開発が成功裏に推し進められるようにした原動力であった。

西海里分鉱山は、自力を信じてこぞって立ち上がった殷栗鉱山の労働者階級の献身的闘争によって開発された。

西海里分鉱山の開発は、高まった当面の生産計画を遂行しながらも二つの坑の建設と10余棟に及ぶ生産建物の建築工事を行い、各種の設備と装置を製作し組立をしなければならない困難な工事であった。

しかし、殷栗鉱山の労働者階級は、堅忍不抜の意志を持って自力更生の創造大戦に果敢に立ち上がった。

鉱山の開発で必須のスパイラル分級機を輸入する問題が提起されたとき、殷栗鉱山の労働者階級は事大主義、技術神秘主義を断固と排撃し、自力でその設備を製作するための活動に大胆に取り組み、失敗に失敗を重ねながらも自力ではどうしてもできないというスパイラル分級機をわずか4カ月の間に2台も製作し、試運転で成功する奇跡を生み出した。

数台のクレーン車なしには不可能だという巻上櫓の組立も、新しい工法でわずか2日間に終え、選鉱場の重い屋根梁の取り付けも一挙に成功させ、科学研究チームとの協力の下にウインチの安全性を保証したのをはじめ、技術革新の成果も相次いで出した。

殷栗鉱山の西海里分鉱山の開発により、黄海製鉄連合企業所の生産を正常化できる土台が築かれた。

これまで西部地区の磁鉄鉱の生産土台が弱かったため、黄海製鉄連合企業所は、茂山鉱山連合企業所で生産された磁鉄鉱を輸送して原料として利用していた。そのため、輸送コストが多くかかり、生産の正常化に少なからぬ支障を受けていた。

西海里分鉱山の開発により、西部地区に無尽蔵に埋蔵されている磁鉄鉱をもって黄海製鉄連合企業所で鉄の生産量を増やすことのできる確実な保証がもたらされた。

現在、鉄精鉱の保障において自分たちが受け持っている重要な役割を自覚した分鉱山の幹部と労働者階級は、採鉱、選鉱設備のフル稼働を保障しながら日別、週別生産計画を狂いなく遂行して、国の金属工業の発展に積極的に寄与している。

西海里分鉱山の開発は、生産土台を不断に固めていくならば、金属工業を安定的で持続的な発展軌道に引き上げられるという確信を与えた。

西海里分鉱山の開発は、単に数万トンの鉱石をさらに生産できるということにだけその意義があるのではなく、それよりも、整備・補強戦略を貫徹するための闘争に明確な前進をもたらし、金属工業の自立性と主体性を強化していくのに大いに寄与したところにある。

殷栗鉱山の労働者階級は、現行の生産を中断することなく推し進

めながらも、自らの力と技術、内部の潜在力を積極的に引き出して今一つの鉄鉱石生産拠点を打ち建てることによって、鉱山を将来を見通して発展させうる強固な土台を構築し、国の金属工業発展にも大いに寄与した。

高質マグネシアクリンカーの生産システム

2023年、大興青年英雄鉱山の幹部と労働者階級は、国内の燃料に依拠した高質マグネシアクリンカーの生産システムを確立することによって、耐火物工業の主体化水準をより高い段階へ引き上げ、人民経済各部門の生産増大を確実に保証できる土台を築いた。

大興青年英雄鉱山の幹部と労働者階級が完成した新しい生産システムは、マグネサイト鉱石と無煙豆炭を利用して高質マグネシアクリンカーを生産する工程である。

大興青年英雄鉱山で生産されている高質マグネシアクリンカーは、珪酸の含有量をはじめとする全ての品質指標が世界的基準に合致し、現存の生産能力は非常に大きい。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第1回会議では、マグネシア工業と黒鉛工業をはじめ有望な経済分野において世界的な競争力を確保するという構想が示された。

また、朝鮮労働党第8回大会では、技術陣と潜在力を動員して耐火物原料の品位を高め、先進的な成型・焼成技術を取り入れて高質耐火物を品種別に円滑に生産する問題をはじめ、国の耐火物工業を世界的水準に発展させるための方向と方途が示された。

高質マグネシアクリンカー生産システムは、徹底した革命精神、愛国精神を身に付けて、あらゆる試練を自力で切り抜けてきた大興の労働者階級の献身的闘争によってもたらされた。

量的成長を追求する道は、少ない手間をかけてもすぐ目に見える

成果を出すことのできる平坦な道であったが、大興の幹部と労働者階級は、国家経済に実際に利益をもたらすことのできる新しい高質マグネシアクリンカーの生産システムを確立するための困難かつ前人未踏の道を選んだ。

実際、わが国の燃料をもって高品質のマグネシアクリンカーを生産することは、なんぴとも歩んだことのない草分けの道であり、横たわる挑戦もまた並大抵のものではなかった。

新しい生産システムを確立する過程で数十回の失敗もあり、わが国の燃料をもっては到底実現できないとかぶりを振ってとやかく言う者、妨害する者もいたが、大興の労働者階級は尻込みしたのではなく、自分の力を信じて一層奮発した。

この過程で炉の構造も新しく設計し、2段焼成法で製品の質を高める新しい方案も見付け出し、冷却選別機、超微粉砕機をはじめとする全ての設備を100パーセント自らの力と技術で製作、設置し、堂々と朝鮮式だと言える生産システムを確立した。

高質マグネシアクリンカーの生産システムの確立は、耐火物工業の主体化の水準を飛躍的に高め、国の経済発展を促すことのできる実質的な保証をもたらした。

大興青年英雄鉱山の労働者階級は、既にマグネシアクリンカーをコークスや重油を全く使わずに無煙炭を利用して作る朝鮮式の生産システムを確立することによって、耐火物工業の主体化を実現していた。

主体的な耐火物工業が世界的な覇権を握るためには、無煙炭を利用して高質マグネシアクリンカーも生産しなければならなかった。ところが、高質マグネシアクリンカーは、重油や天然ガスがなければ生産できないというのが公理のようになっていた。

大興の労働者階級は、既成の慣例を破り、国内に無尽蔵な無煙炭

を利用して耐火物の原料であるマグネシアクリンカーを世界的基準に合致するように作り出す新しい生産システムを確立した。

耐火物の質は、セメント工場、製鉄所、製鋼所など人民経済の主要部門の生産実績と直結している。新たに開発した高質マグネシアクリンカーで作った耐火物を利用すれば、鋼鉄炉と焼成炉の補修周期を4～5倍に増やすことができる。これは、金属、化学、建材工業をはじめとする重要工業部門の生産を持続的に成長させうる今一つの変革であった。

大興の労働者階級は、国内に無尽蔵な原料と燃料に依拠して、100パーセント自らの力と技術で世界的なものだと自負できる高質マグネシアクリンカー生産システムを確立することによって、人々に、自分の力を信じて取り組めば、われわれのものをもっていくらでも世界的なものを創造することができるという信念を与えた。

結晶グラウバー塩の生産工程

2023年、採掘工業部門に提起された重要な課題は、12月5日青年鉱山の結晶グラウバー塩生産工程を完工することであった。

採掘工業部門の労働者階級は、12月5日青年鉱山の結晶グラウバー塩生産工程を完工することにより、化学工業の自立的土台を強固にし、国の経済発展と人民の生活向上で実質的な前進を遂げられる明るい展望を開いた。

12月5日青年鉱山の結晶グラウバー塩生産工程は、国内に無尽蔵に埋蔵されているグラウバー石を加工して、人民経済の各部門で切実に要求される炭酸ソーダの生産に必要な基礎化学物質である結晶グラウバー塩を抽出する生産システムである。

12月5日青年鉱山に年間数万トンの結晶グラウバー塩を生産できる土台が整えられることによって、南興(ナムフン)青年化学連合企業所に整えられた炭酸ソーダ生産工程の正常な運営を円滑に保障できるようになった。

結晶グラウバー塩生産工程の建設に国家的な投資を集中するよう措置を取った朝鮮労働党は、強力な建設指揮部を組織し、結晶グラウバー塩生産工程の技術課題書の作成と設計、設備と資材、資金の提供と科学技術的対策、労働力の保障問題をはじめ工事で提起される全ての問題を解決するようにはからった。

こうして、主体的化学工業の発展史に明記されるべき誇らしい創造物が立派に立ち上がった。

結晶グラウバー塩生産工程は、自尊、自立の革命精神を高く発揮した科学者、技術者、建設者の献身的闘争によって完工した。

12月5日青年鉱山の結晶グラウバー塩生産工程の建設は、国の化学工業発展で新しい分野の開拓であると言える困難な工事であり、建設過程で提起される難問も一つや二つではなかった。

建設に参加した幹部と建設者、科学者、技術者は、党が構想し意図する問題は必ずやり遂げなければならないという透徹した覚悟を持ち、あらゆる難関を自力で切り抜けながら工事を粘り強く推し進めた。

国家科学院ナノ工学分院の幹部と研究者は、研究活動を力強く進めて効率的な結晶グラウバー塩生産技術を完成し、1回の導入で成功させる成果を収めた。

建設者たちは、予測できなかった最悪の困難が折り重なった2021年の1年だけでも、新しい施工法を創造・導入して、多くの労働力と資材を節約しながらも6万余立方メートルの基礎掘削と7万余立方メートルの土量を処理し、10余の建設対象に対する骨組工事を完了した。

2022年にも、自力では不可能だという鋼骨構造物の組立と骨組工事を1カ月余りの期間に完工したことをはじめ12の対象工事を行

い、280余台の設備の組立と360余台の設備の試運転を成功裏に保障した。

自力自強の革命精神こそは、全ての難関を乗り越え、新しい結晶グラウバー塩生産システムを確立して、主体的化学工業の明るい展望を開いた奇跡の源泉であった。

結晶グラウバー塩生産工程の完工により、炭酸ソーダ工業の発展に資する信頼に足る原料拠点が建てられた。

輸入に依存していた炭酸ソーダを自給自足するために、南興青年化学連合企業所に炭酸ソーダ生産工程を設けたが、原料が円滑に保障されず、生産に支障を受けていた。

2023年、グラウバー石を出発原料にして炭酸ソーダの生産に必要な基本原料である結晶グラウバー塩を生産する工程が完備することにより、軽工業と化学工業をはじめとする人民経済の各部門で輸入していた大量の炭酸ソーダを国内で自力で生産・供給できるようになった。

莫大な経済的利潤を得られるようになったのは言うまでもなく、基礎化学製品の自給自足を実現する上で重要なネックが解消された。

結晶グラウバー塩生産工程の完工は、国家的な自力更生の旗の下に、経済部門間、単位間の連携と協同を強めるという党政策の正当性を実証した。

12月5日青年鉱山の結晶グラウバー塩生産工程を整える活動は、膨大な量の設備と資材、労働力が必要であり、数多くの科学技術上の難問が提起される困難な課題であるため、ある一つの単位や部門の力だけでは工事の成果的保障を期待することができなかった。

そのため、内閣の統一的な指揮の下に各省・中央機関と関連単位の幹部、勤労者は、結晶グラウバー塩生産工程を整える活動にこぞって取り組んだ。

内閣は、採取工業省で結晶グラウバー塩生産工程の建設に総力を集中できるよう工事に必要な多額の資金を優先的に提供し、国家計画委員会と建設・建材工業省、林業省をはじめとする当該単位でセメントと燃料油、木材の全量を計画化して保障するよう強く掌握・推進した。

建設・建材工業省と化学工業省は、有能な技術者、技能工を派遣し、冷凍化場と結晶化場をはじめとする結晶グラウバー塩生産工程の設備・装置の組立と管路網工事を質的に完成するようにし、国家科学技術委員会、国家科学院、教育省も、結晶グラウバー塩生産工程を整える上で提起される科学技術上の問題を円滑に解決した。

平安北道人民委員会では、工事に不足する労働力と運輸機材、園林緑化に必要な1500余平方メートルの芝生と1000余株の苗木を提供し、誠意を込めて支援物資を用意して送った。

結晶グラウバー塩生産工程を整える過程で、経済部門と単位間に連帯・連合を強めるとき、いかなる難関も切り抜けて全般的経済発展の道へ確信を持って前進することができるということが今一度はっきり実証された。

軽工業製品展示会「軽工業発展—2023」

2023年、軽工業部門では各地に児童・生徒制服工場と小麦加工拠点を建設したことをはじめ、数多くの軽工業工場の生産能力を拡張することによって、人民の生活向上のための物質的・技術的土台を一層強化し、制服と菓子類などの軽工業製品を質的に生産・供給して人民を喜ばせた。

日ごとに飛躍する軽工業の発展ぶりは、2023年に大盛況裏に行われた軽工業製品展示会「軽工業発展—2023」を通じてもはっきり示された。

軽工業製品展示会「軽工業発展—2023」の特徴は、規模や形式において最高のレベルで行われた展示会だというところにある。

この10余年間に大胆な跳躍と明確な前進を遂げた軽工業発展史の縮図とも言える軽工業製品展示会「軽工業発展—2023」は、その規模や形式においても前例のないものであった。

670余種1万2000余の製品が出品された展示会には、新設された工場をはじめ550余の省・中央機関の工場と各道の地方工業工場が参加した。

また、良質の生活必需品を生産している軍需工業部門と武力部門、その他の生産単位も参加した。

展示会場には合わせて16の部門展示エリアがあり、1階には紡織製品とメリヤス、衣類、家庭用品、履物、かばん、学用品と事務用品、化粧品、衛生用品などが展示され、2階には食品と台所用品、日用雑貨、文化用品、家具及び建材品、携帯電話、工芸品などが展示された。

展示会はその形式も斬新であり様相も独特であった。

既存の展示方式から完全に脱して広い空間に調和が取れるように整えられた展示会場は、造形芸術的に立体感が出るように形成され、各展示台は展示品の特性に即して多様な模様と形態を備えているので、参観者の耳目を集中させた。

洗練された優雅な電飾と照明効果、ホログラム表示装置をはじめとする近代的な直観手段を組み合わせた新しい展示方式も積極的に導入された。

屋外には販売区域とサービス区域が別に整えられて参観者の便益を図り、特色のある行き届いたサービス活動も行われて、展示会に対する従来のイメージを完全に改めた。

朝鮮の軽工業の目覚しい実体を新たな様相と規模で見せた展示会

は、総合化・集約化・近代化のモデル展示会であった。

朝鮮労働党は党大会と党中央委員会総会で、中央軽工業工場を近代化し、金化郡地方工業工場をモデルにして全国の地方工業工場を改造する問題、原料、資材、設備の国産化比重を高め、再資源化を積極的に推し進める問題、消費財の品質向上を軽工業革命の種子とし、人民が好み、世界的な競争力を持つ名製品、名商品を開発・生産する問題をはじめ、新たな軽工業革命を起こすための方向と方途を提示した。

これを受けて、元山（ウォンサン）製靴工場と金正淑（キムジョンスク）平壌紡織工場、三池淵（サムジヨン）イモ粉生産工場、平壌靴下工場、三池淵ブルーベリー飲料工場、金正淑平壌製糸工場、平壌幼児食品工場をはじめとする全国各地の軽工業工場で、軽工業革命の炎が激しく燃え上がった。

金正淑平壌紡織工場の労働者寮をはじめ軽工業部門の労働者のための労働者ホテル、労働者宮殿が建てられたことは、軽工業を飛躍



させた原動力となった。

金正恩総書記は、軽工業発展の10年史を総括し、国の軽工業を新たな高い段階に引き上げるために軽工業製品展示会を意義深く開催することを発起し、自ら「軽工業発展—2023」と命名した。こうして、3大革命展示館の軽工業館を立派に改築・補修するための国家的な措置が取られ、建設陣と設備、資材の保障問題に至るまで全ての対策が立てられた。

そして、軽工業部門で収められた成果をいろいろな形式と方法で紹介する問題、形成案の作成とマーク、看板、広告デザインの創作に関する問題、部門別科学技術発表会と経験発表会の進行に関する問題、優れた単位と製品、個人に賞状と証書、メダル、賞金を授与する問題をはじめ、展示会を成功させるための対策が取られた。

それだけでなく、展示会参加単位が示達された出品の指標と数量を予定の期日に質的に生産・供給し、展示会の準備期間に人民が好み喜ぶ消費財を一つでも立派に作って出品させるための旋風を巻き起こして、展示会が軽工業製品の品質を一段と高める契機になるようにする活動も行われた。

軽工業製品展示会「軽工業発展—2023」は、軽工業の飛躍的な発展ぶりを直接目撃し、実感させることによって、人民に自分のものに対する誇りと自負、明日への信念と楽観を与えた。

この10余年間、平壌穀物加工工場と元山製靴工場をはじめとする110余の軽工業工場が立派に改造され、柳京（リュギョン）生活用品工場と大城山（テソンサン）アイスクリーム工場をはじめとする60余の近代的な軽工業工場が新設され、総合的で多機能化されたサービス施設である大聖（テソン）百貨店と平壌第1百貨店をはじめ数百余の商業サービス単位が時代の要求に即して一新されることによって、軽工業の発展・跳躍のための物質的・技術的土台が打ち固められ、労働党時代の文明創造の新たな境地が

切り開かれた。

また、人民が好み喜ぶ数多くの新製品が開発された。

「メボンサン（鷹峰山）」ブランドの靴、「チョルチュク（クロフネツツジ）」ブランドの靴下、「ポムヒャンギ（春の香り）」ブランドの化粧品、「ソナム（松）」ブランドのかばん、「ミンドゥレ（タンポポ）」ブランドのノート、「ヘバラギ（ヒマワリ）」ブランドの学用品など名製品、名商品が数多く生まれて人民と次世代を喜ばせ、金化郡の変貌のような変革が遂げられて、地方が変わり発展する新時代が開かれた驚異的な現実は、決して平凡な日々にもたらされたものではなかった。

軽工業製品展示会「軽工業発展—2023」は、軽工業部門で新たな前進と発展の空間、技術と経験交流の契機となった。

展示会では、軽工業全般を共に発展させる上で実践的意義を持つ部門別科学技術発表会、経験発表会、科学技術趨勢講義をはじめ、当該単位で収めた成果と経験、優れた技術を広く交流し普及する活動が活発に行われた。

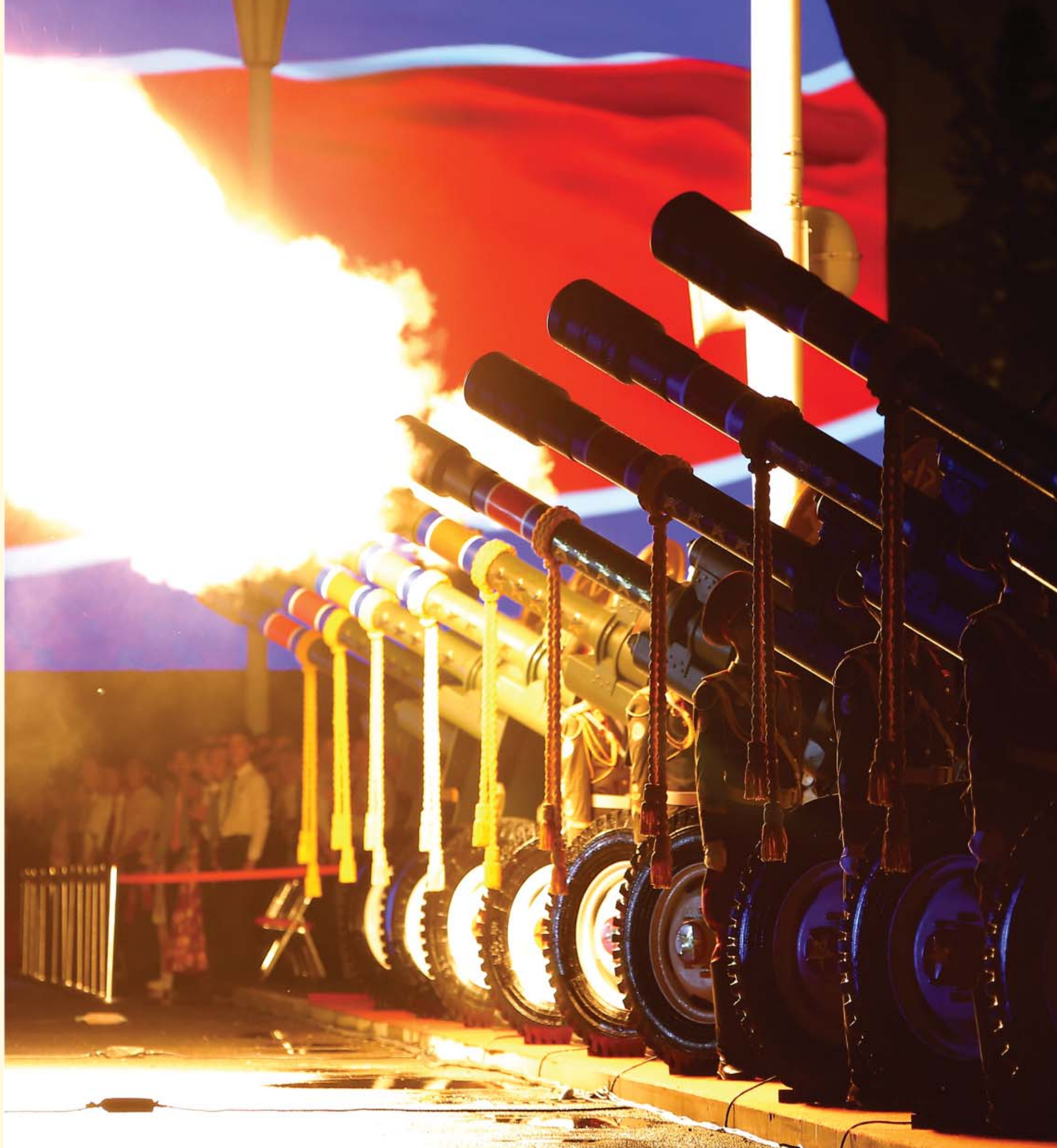
進んだ単位の経験と新しい技術が積極的に共有・移転され、今後達成すべき目標とその実行方途についての討論が深化した展示会は、軽工業部門生産単位の競争熱を高調させ、同時的発展を力強く後押しした重要な契機となった。

参加者たちは、今回の展示会は生産単位間の経験交換の場、技術交流の場、参観者の正確な評価が下される試験場だとして、人民の志向と要求に耳を傾け、絶え間なく新しいものを創造するために力を入れるときこそ、発展する時代に追い付くことができるということを改めて深く感じることができたと一様に言っている。

軽工業部門の勤労者は、展示会を跳躍台にして新たな飛躍を引き起こしていく熱意に満ちていた。

3 国力と国威を宣揚

　2023年、朝鮮労働党と人民は一心団結の国、自主、自立、自衛の社会主義の強固なとりでで、無敵の核強国としての国力と国威を万邦に轟かせた。
　核武力強化政策を国家の基本法に定着させて核保有国の地位を永久化し、建軍75周年と戦勝70周年を祝う閲兵式、共和国創建75周年慶祝行事を盛大に行い、朝ロ関係発展の新たなページを開いたのは、一心団結を核とする朝鮮の政治的・思想的威力を余すところなく誇示し、人民に大きな誇りと自負を抱かせた。



核武力強化政策の憲法化

核武力は、核戦争を防止し、国家の存立と発展、人民の生命・財産をしっかりと守る強力な手段である。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第9回会議は、国家防衛で占める核武力の地位と核武力建設に関する国家活動原則を、共和国の基本法であり社会主義強国建設の政治憲章である社会主義憲法に規定するための憲法修正・補足案を審議し、全会一致で採択した。

修正・補足された社会主義憲法は、共和国は責任ある核保有国として国の生存権と発展権を保証し、戦争を抑止し、地域と世界の平和と安定を守るために核兵器の発展を高度化するということ、共和国武装力の使命は国家主権と領土保全、人民の権益を擁護し、あらゆる脅威から社会主義制度と革命の獲得物を固守し、祖国の平和と繁栄を強力な軍事力で保証するところにあるということをはっきりと規定している。

核武力強化政策の憲法化は、尊厳ある核保有国としての共和国の地位を永久化し、国家防衛力をさらに強固にし、核戦争の危険から国家の安全と世界の平和を確実に守ることのできる最高の法律的武器をもたらした歴史的な出来事であった。

核武力強化政策の憲法化は、現時代の当面の要求は言うまでもなく、社会主義国家建設の合法則性と展望的要求に徹底的に合致する正当かつ適切な重大措置であった。

核武力強化政策の憲法化は、何よりもまず、核戦争の危険を防ぎ、国家の永遠な安全と将来の平和と安定を保障すべき現時代の当面の要求を正確に反映している正当な措置であった。

2023年に入り、アメリカ帝国主義と大韓民国の一味は「拡大抑止力」の強化を云々しながら、わが国家に対する核兵器の使用を目的とした「核協議グループ」を稼働させ、ついで大規模の核戦争合同軍事演習を再開し、傀儡韓国に核潜水艦をはじめとする核戦略資産を常時配置の水準で引き入れることによって、核戦争の脅威を史上最悪の水準に極大化した。

アメリカ帝国主義は、日本、傀儡韓国との三角軍事同盟体制の樹立を本格化することにより、ついに戦争と侵略の根源的基礎である「アジア版NATO」の凶悪な正体をあらわにし、地域外の対決機構であるNATO勢力まで引き入れて、わが国家の安全環境に実際的な最大の脅威を作り出した。

アメリカ帝国主義が2023年のように、世界の面前で共和国を核攻撃対象に指定し、核戦略資産を露骨に送り込んで核戦争演習騒動を膨大な規模で繰り広げた前例はなかった。

「核の優位」を信じて襲いかかる侵略者を、核武力強化の実際的な行動をもって制圧することは、国の尊厳と安全を保証する唯一の道であった。

共和国はこうした要求からして、核武力の現代化をさらに力強く推進できるように核武力強化政策を憲法として定着させることによって、アメリカ帝国主義と韓国傀儡の核戦争挑発ヒステリーを制圧し、国家の安全を確固と守ることのできる法律的保証をもたらした。

核武力強化政策の憲法化は次に、社会主義国家建設の合法則性と展望的要求に合致する正当な措置であった。

歴史を振り返ってみると、この惑星に核兵器が出現し、初の核惨禍を被ったときから、人類は核兵器のない世界を願ってきた。

特に共和国は、1950年の祖国解放戦争のときから始まった核恐喝の直接的な被害当事者であり、国とその周辺を非核地帯に作るため

の平和愛好的な努力を重ねてきた。1959年にアジアに核兵器のない平和地帯を設置することを発起し、1981年に東北アジア非核地帯の設置案を提案したのがその代表的な例である。

しかしアメリカ帝国主義は、単に思想と制度が異なるという理由で共和国の平和愛好的な提案を全て無視し、非核国である共和国に対する核威嚇を数十年間にわたって増大させてきた。

アメリカ帝国主義は「戦争時、原子爆弾を使用できなかったのが残念」だとし、戦後必死になって核戦争の準備をさらに追求し、傀儡韓国への核兵器の搬入を促して大韓民国を極東最大の核前哨基地に作った。

毎年、膨大な核戦略資産を動員して頻繁に軍事演習を繰り広げながら核戦争の暗雲を招くアメリカ帝国主義の策動により、朝鮮の社会主義建設は大きな障害と厳しい難関を経なければならず、はては国家の存立さえ危ない非常局面に直面したときも少なくなかった。

これは朝鮮をして、敵対勢力の核の威嚇には必ず核をもって対応しなければならないという哲理と共に、一旦保有した核は、歳月が流れ代が替わっても国家の永遠な戦略資産として保存・強化し、誰であれ、いかなる場合にも傷つけることができないようにすべき必然性を痛感させた。

帝国主義者が核をもって自主の道へ進む国々を脅かし、社会主義を圧殺しようと狂奔しているため、社会主義国家建設は不可避的に核戦争の危険を同伴するようになり、核抑止力の強化に社会主義勝利の根本的保証があった。

共和国は今後も、平和と安全の確固たる保証を持って社会主義建設を推し進めるためにも、責任ある核保有国として世界の平和と安全を守り抜かなければならない本来の使命に忠実であるためにも、核武力を加速的に発展させなければならなかった。

共和国政府が核兵器の発展を高度化して国の生存権と発展権を保証し、戦争を抑止し、地域と世界の平和と安定を守り抜くことを国家の基本法として公式化したことは、帝国主義の恒常的な核戦争挑発策動の中で行われる社会主義国家建設の合法則性と展望的要求を科学的に反映した正当な歴史的壮挙であった。

核武力強化政策の憲法化は、何よりも、核武力強化政策の法律的地位を最高の境地に引き上げることによって、国家の安全保証と国益守護の制度的・法律的基盤をさらに打ち固めた。

共和国は自衛のために核保有の道を選んだ。しかし米国は、あたかも朝鮮の核武力によって世界の平和と安定が脅威にさらされているかのように世論をまどわし、朝鮮の核を何らかの「経済的恩恵」との駆け引きの具にして幾ばくかの金で朝鮮を「核の放棄」に誘導しようと幼稚に振舞った。

2022年、共和国は核兵器を保有するようになった根源からしても、その使命からしても、核は誰も非難することができず、いかなる駆け引きの対象にもなり得ないという立場を明確にし、最高人民会議第14期第7回会議で国家核武力政策を法制化した。

最高人民会議第14期第9回会議では、前年に部門法として採択された国家核武力政策を共和国の最高法である憲法にはっきりと規定することによって、その法律的地位を最高の水準に引き上げた。こうして共和国の核保有国の地位を永久に定着させ、核武力の強化に徹底的に依拠して社会主義建設と反帝・自主偉業を力強く推し進めていくことのできる最も強固な法律的基礎がもたらされた。

核武力強化政策の憲法化は次に、人民に自主的で自衛的な国家建設と国家防衛力強化の前衛を開拓した誇りと自負を抱かせ、社会主義の全面的発展のための闘争で愛国的熱意と奮発力を最大に発揮できるようにする政治的武器をもたらした。

強国の公民となった誇りと自負は決して、発達した経済技術力や軍事力によって抱くようになるのではない。国の自主的発展と人民の利益を守るためには、誰の顔色をうかがおうとせず、いかなる挑戦にも立ち向かって、どんなことであれ決心した通りに実践する党と国家の政治的意志と実行力に対する感嘆と感謝の念から噴出するのが、強国人民の誇りと自負である。

国家核武力強化政策の憲法化は、自主、自尊を生命とし、そのためならいかなる代価も払う透徹した覚悟と意志を持った朝鮮労働党と共和国政府が下した政治的決断であった。

勝利伝統の継承の意志を宣言した閲兵式

2023年の2月8日と7月27日、平壌では、朝鮮人民軍創建75周年慶祝閲兵式と祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式が盛大に行われた。

朝鮮人民軍創建75周年慶祝閲兵式と祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式は、朝鮮の革命武力の誇るべき発展の歴史、反帝・反米対決の勝利の歴史と伝統を強大な国力の保証の下に永遠に力強く継承していく朝鮮労働党と人民の意志を全世界に誇示した政治的出来事であった。

朝鮮人民軍創建75周年と祖国解放戦争勝利70周年を祝う閲兵式は、その構成と主題・思想の内容、形式において、朝鮮式閲兵行事の新しい境地を開拓した最高の政治・軍事祝典であった。

その特徴はまず、閲兵縦隊の構成と面貌において歴史と伝統、当代の時代相と今日の現代性を立派に結び付けて、革命的正規武力の強化・発展ぶりを直観的に見せた独特な閲兵式だというところにある。

閲兵式で特色のあったことは、元帥服姿の金日成（キムイルソン）主席の肖像を閲兵縦隊の一番先頭に丁重に掲げ、建軍の初期と祖国解放戦争時期の象徴縦隊が抗日革命闘士をはじめとする主要指揮官、戦争期に輩出した共和国英雄の肖像を隊伍の前に立たせて閲兵広場を行進したことである。

朝鮮人民軍創建75周年慶祝閲兵式では、「反日人民遊撃隊」と書かれた旗を高く掲げた抗日の第7連隊の象徴縦隊と祖国解放戦争時期の親衛中隊の象徴縦隊、祖国解放戦争史に輝く第1歩兵師団、第2軽歩兵師団、第3独立歩兵旅団、第4歩兵師団の象徴縦隊が、抗日革命闘士と親衛中隊出身の老革命家たち、主要指揮官の肖像を隊伍の前に掲げて行進することによって、金日成主席に限りなく忠実であった革命の第1世代の気高い精神と使命、不屈の革命精神と決死抗戦の闘志を変わることなく継承していく人民軍の誇り高い姿を見せた。

特に、祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式では、金日成主席の肖像を高く掲げた祖国解放戦争時期の指揮官象徴縦隊を先頭にして、親衛中隊の象徴縦隊、近衛姜健（カンゴン）第2歩兵師団をはじめとする祖国解放戦争時期に不滅の勲功を立てた近衛師団、近衛連隊の象徴縦隊、鉄道兵象徴縦隊、内務省象徴縦隊、少年及び男女パルチザン象徴縦隊が、部隊が輩出した共和国英雄の肖像を高く掲げて進むことによって、革命軍隊の勝利の歴史は卓抜した領袖の賢明な指導の歴史であり、勝利伝統継承の根本的保証は忠実性のバトンをしっかり受け継ぐところにあるということを感銘深く見せた。

建軍75周年慶祝閲兵式と戦勝70周年慶祝閲兵式が繰り広げた今一つの特異な光景は、朝鮮の革命武力の誇らしい闘争史が集大成された百戦百勝の軍旗と大衆運動旗が閲兵広場を覆うように入場する様子と閲兵縦隊軍人たちのモダンな軍服姿であった。

建軍75周年に際して新たに改定された朝鮮人民軍軍旗は、強兵に育った朝鮮人民軍特有の毅然とした心意気と威厳、強靭さとたくましさをはっきりと示し、模範中隊旗と赤旗中隊旗、3大革命赤旗、呉（オ）







朝鮮人民軍創建75周年慶祝閱兵式

仲洽（ジュンフプ）第7連隊旗をはじめとする大衆運動旗も、人民軍の栄光に満ちた発展の歴史と正規化の面貌を象徴して閲兵縦隊の前ではためいた。

現代感がありながらも人民軍固有の特色がよく活かされた新型の軍服を着用した閲兵縦隊軍人たちの雄々しい姿と、新しい将官礼服を着て腰に記念長剣を下げ、胸元にきらめく勲章を付けた指揮官の威風堂々たる姿は、強兵の面貌と威信をさらに際立たせた。

建軍75周年慶祝閲兵式と戦勝70周年慶祝閲兵式では、機甲化縦隊の編成においても近代的な攻撃手段と防御手段を共に備えた共和国武力の威力を、創建当時の幼弱な姿と対比してはっきり際立たせた。

祖国解放戦争時期の象徴縦隊には、あまりにも貧弱な武力装備で帝国主義武力侵犯者を打ち負かし、戦勝の奇跡をもたらした人民軍の高貴な英雄的精神と偉勲がそのままこもっていた。

人民軍の戦闘力の象徴であり鉄拳である主力戦車縦隊と第1兵種である砲兵縦隊、戦術ミサイル縦隊と長距離巡航ミサイル縦隊、戦略兵器縦隊をはじめ、広場を縫って行進した先端武力装備は、共和国国防力の飛躍的な発展ぶりと先進性を明白な実体として見せた。

建軍75周年、戦勝70周年慶祝閲兵式の特徴はまた、全般的内容と流れにおいて、人民軍の革命的性格とこの行事の特性をはっきりと活かした斬新な閲兵式だというところにある。

建軍75周年慶祝閲兵式は、人民軍の革命的性格に合わせて新しい形式で行われた。

閲兵礼式の開始を飾る空挺兵たちが、夜空に燦然たる光を放つ国旗と共に、大型の朝鮮労働党旗をなびかせながら降下することによって、党の指導に限りなく忠実で、ひたすら党が指し示す一方向にのみ銃口を向けて進む人民軍の本態をはっきりと示した。

総合軍楽隊が変化に富んだリズム隊形で人民軍の歴史と伝統、最大の使命と必勝不敗性を象徴する5角の星と「2・8」「75」などの数字についで党マークと「強兵」という文字を広場に次々と描く光景は、その誕生が宣布されてから75年の長きにわたり、勝利と栄光のみを記しながら強兵に成長した人民軍の誇るべき発展行路を集中的に見せた。

建軍75周年慶祝閲兵式で特に人々の視線を引いたのは、国旗掲揚式である。人民軍の各級連合部隊の軍旗が二列に向かい合って並び敬意を表する中、儀仗兵たちが手にした国旗が国旗掲揚台まで運ばれて丁重に掲揚されることによって、強兵がなければ強国もないように、軍旗が光を失えば国旗も輝くことができないという歴史の真理を人々の心の中に刻み付けた。

戦勝70周年慶祝閲兵式は、かつてなく苛酷な戦争の年代を勝利に輝かせた3年間と、その勝利を守ってきた70年間の崇高で深遠な意味がよく分かるように構成された。

閲兵式が行われる金日成広場には、戦勝世代の大きな犠牲と高貴な精神がこもっており、偉大な勝利者の尊厳と気概があふれる雄壮な「勝利」像が設置され、それを中心に青年・学生が舞踏会を繰り広げ、閲兵広場に入る1950年代の祖国防衛者たちに祝賀と尊敬の念を込めた花束と花房を抱かせて戦勝の慶祝雰囲気を一層高揚させた。

国旗掲揚式も行事の性格に合わせて厳かに行われた。チュチェ朝鮮の高い尊厳と栄誉の徴表である英雄メダルが光を放つ中、朝鮮人民軍儀仗兵が参戦老兵たちから戦火の中で血潮をもって守ってきた共和国旗を丁重に引き渡されることによって、戦勝世代の高貴な魂と精神、不滅の偉勲をしっかり継承し、共和国の強大な地位と気概をさらに高く轟かせていく新世代の意志をよく示した。

祖国解放戦争時期の象徴縦隊が参戦者たちを縦隊長にして戦火の近衛部隊の軍旗を翻しながら威風堂々と行進していくことによって、偉大な戦勝の歴史と勝利の伝統を変わることなく継承していく



祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式

朝鮮人民の意志をはっきりと示した。

建軍75周年、戦勝70周年慶祝閲兵式の特徴はまた、新しく開発されたチュチェ兵器の電撃的な公開をもって、共和国の強大な軍事力の実相を明白に見せた閲兵式だというところにある。

建軍75周年慶祝閲兵式では、以前の閲兵式とは違って大陸間弾道ミサイル「火星砲（ファソン）—17」型が第321号英雄発射台車を先頭にして10余機も進むことによって、共和国核武力の強大な潜在力と威力を余すところなく発揮した。

世界の主要メディアは、「大陸間弾道ミサイル『火星砲—17』型は朝鮮の国宝級兵器、米国を射程に入れた弾道ミサイルであり、数回の試射で成功している。『火星砲—17』型が以前の閲兵式では一列になって行進したが、今回は二列に並んで閲兵広場を通過した。これは、朝鮮が長距離ミサイルを量産し、より多くの戦略兵器を保有していることを実証している」とし、記録的に多くの大陸間弾道ミサイルが登場したことを大々的に報道した。

特に、閲兵式の終わりを飾りながら新しく出現した大陸間弾道ミサイル「火星砲—18」型は見る人々をびっくりさせた。

世界の数多くのメディアと分析家は、9軸移動式発射台車に載せられた迷彩ミサイルが新たに登場したとし、固形燃料エンジンを装着した新型ミサイルである可能性が高いと一様に評した。

戦勝70周年慶祝閲兵式では、公開していなかった数種の先端級武力装備が出現して、主体的国防工業の発展ぶりと底力をはっきりと示した。

最大の核攻撃能力を誇示する「火星砲—17」型と「火星砲—18」型の大陸間弾道ミサイルと共に、新しく開発・生産された戦略無人偵察機と多目的攻撃型無人機、核無人水中攻撃艇が威風堂々と広場を通過して行く光景は、朝鮮の軍事力がいかなる境地に達したのかを全世界に誇示した。

世界のメディアは、「閲兵式には米本土を狙った固形燃料式大陸間弾道ミサイル『火星砲—18』型、新型大陸間弾道ミサイル『火星砲—17』型、核無人水中攻撃艇『ヘイル（津波）』などが登場した。新しく開発された戦略無人偵察機と多目的攻撃型無人機が閲兵式の前に平壌の上空を示威飛行した。急テンポで新型無人機を開発・完成することによって、米軍に対抗できる軍事装備があるということを示した。共和国が偵察だけでなく打撃手段まで備えた無人機を新しい兵器目録に新たに追加した」と広範に報道した。

建軍75周年、戦勝70周年を祝う閲兵式は、帝国主義との対決で常に勝利のみを重ねてきた人民軍の不敗の気概と威容、誇り高い歴史を代を継いで永遠な伝統として受け継いでいく共和国の意志を世界にはっきりと知らしめた。

不敗の軍事力の上に国家の自尊と尊厳があり、革命偉業の正当性も勝ってこそ証明されるのである。帝国主義侵略勢力との力の対決での勝敗は、国家防衛力の強弱によって決定され、自衛があってこそ自主も自立もある。

かつてなく苦難に満ちた朝鮮革命がどんな力で前進し、わが国家が何をもって不敗であり、われわれの理想と未来がいかに建設されるかについての最も真実な回答、最も公正な歴史の評価がまさに人民軍の75年史、戦勝の70年史のページごとに記されている。

建軍75周年、戦勝70周年を祝う閲兵式は、人民軍が歩んできた誇り高い歴史、3年間の戦勝を70年間の戦勝につないできた誇らしい歴史に対する総括であると同時に、勝利の伝統を永遠に受け継いでいく革命武力の継承意志の一大誇示である。

閲兵広場を歩武堂々と行進する第一線野戦武力の閲兵縦隊にも、海の決死隊、空の盾として勇名をはせる海軍や空軍の縦隊と共和国武力

の不敗の力の象徴である戦略軍縦隊、特殊作戦軍縦隊にも、命令を受ければ直ちに疾風のごとく突き進んで敵をせん滅し、勝利の凱歌を高らかに響かせる勇敢無比の気概と戦闘精神が力強く発揮された。

高い機動力と打撃力を誇る戦術核運用部隊縦隊と大陸間弾道ミサイル縦隊をはじめ、共和国武力が装備した先端兵器にも、代を継いで続く鋭い対決で侵略者の後裔に容赦なき懲罰を加えようとする意志が強く込められていた。

戦勝70周年慶祝閲兵式で共和国武力は、国家の自主権と安全を軍事的に侵害しようとする行為をいささかも許さないであろうし、これを阻止するための武力対応をさらに攻勢的に行使していくであろうということを厳かに警告した。

敵国のメディアは、米国と大韓民国が引き続き軍事対決を企図するならば、共和国の武力行使が米国と大韓民国に限っては防衛圏範囲を超越するようになると言及して、先制攻撃の可能性を示唆したと報じた。

偉大な建軍の初の世代、偉大な戦勝世代が帝国主義連合勢力に恥ずべき敗北を抱かせたように、今後も、朝鮮を侵す侵略者を容赦なく撃滅することによって、勝利の伝統を代を継いで継承していく揺るぎない意志を世界にはっきりと示したというところに、建軍75周年と戦勝70周年を祝う閲兵式の画期的な意義がある。

建軍75周年と戦勝70周年を祝う閲兵式は次に、われわれの強大な国力を遺憾なく誇示することによって、敵対勢力に鉄槌を下し、人民に勝利の信念と勇気を与えた。

国力を示す閲兵式は、政治と軍事はもちろん、経済と文化、科学技術の集合体だと言える。閲兵式を通じてその国の政治的・軍事的威力は言うまでもなく、経済的及び科学技術的潜在力が総合的に評価され、その準備にも多くの手間がかかる。

朝鮮では数カ月の間に2度も正規武力の閲兵式を高いレベルで断行した。

世界的な保健危機が完全に解消されず、国の周辺できな臭い危険な行為が続いている非常に緊張した困難な状況の中で大規模の閲兵式を相次いで行ったこと自体が、強兵の面貌を示すことであり、強大な国力の実相である。

特に、金正恩総書記がロシアと中国の代表団団長と共に戦勝70周年慶祝閲兵式を査閲したニュースに接し、世界の主要新聞、テレビ、通信は、閲兵式についての報道を「金正恩総書記が閲兵式の幹部壇の中心に登壇、中国とロシアの代表と共に」「金正恩総書記が中国とロシアの代表団と共に閲兵行進を査閲」「朝鮮民主主義人民共和国が中国とロシアの代表団の前でミサイルを展示」などと題して大々的に報道し、敵も「平壌は今回、ロシアや中国との関係の強化を見せて、米国とその同盟国の戦略的脅威に軍事的に対応する準備ができているというシグナルを送った。中国とロシアが国連安全保障理事会の禁止した朝鮮民主主義人民共和国のミサイル関連行事に共に現れたのは、平壌の兵器開発と関係があると疑われる一切の行動を避けていた以前とは対照される」と評した。

2回の閲兵式を通じて、試練の中でもより一層強くなる革命的武装力、強大な共和国の国力を目の当たりにした人民の心は大いなる誇りと自負に満ちあふれ、党中央委員会総会の決定貫徹のための闘争に邁進する気概と勇気はさらに高まった。

閲兵式を見た人民は「われわれは強くなったし、軍事強国になったことを改めて深く認識させられた。経済の高度成長を誇る大国さえも持つことも、真似ることもできないこのような自衛的軍事力をもたらした敬愛する金正恩総書記がおられるがゆえに、われわれは経済建設でも目覚しい飛躍を成し遂げるであろう」「今回の慶祝行

事を通じて、わが共和国の不敗の国力と強大な発展潜在力への確信を抱いた。われわれは自力更生の旗をさらに高く掲げ、科学技術に徹底的に依拠して生産正常化、生産活性化の轟音を鳴り響かせ、集団主義の威力をもってあらゆる障害と難関を果敢に切り抜けていくであろう」と、興奮した気持ちを披瀝した。

偉大な転換と変革の年2023年と共に、チュチェ朝鮮の高貴な財産として輝く朝鮮人民軍創建75周年慶祝閲兵式、祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式は最高の閲兵祝典であった。

剛勇な人民の力を誇示した9月

共和国創建記念日は、自主によって尊厳ある朝鮮人民の誇るべき祝日である。

2023年9月、首都平壌では共和国創建75周年に際して、全国人民の大きな期待と関心の下で中央報告大会と民間防衛武力閲兵式、青年前衛のたいまつ夜会と大公演をはじめ複数の政治・文化行事が盛大に行われた。

慶祝行事には、最高人民会議代議員と模範的な道・市・郡人民会議代議員、第8回党大会と党中央委員会総会の決定貫徹で実績のある人民経済の各部門の労働革新者、模範的な軍人を含む1万人近い代表が招待された。

9月8日夕、万寿台（マンスデ）議事堂の前では、金正恩総書記の臨席の下に共和国創建75周年慶祝中央報告大会が行われた。

中央報告大会で報告者は、尊厳と栄光に輝く75星霜の不滅の道程で今日のような強大な国家が生まれるようになったのは、わが党の思想と政策、わが人民政権と朝鮮式社会主義体制の勝利であると同

時に、わが人民の強い自尊心と強靭性の勝利であり、金正恩総書記に従って革命を行ってきたこの10余年間の闘争がこれを立派な結実として実証していると述べた。

報告者は、共和国政府は今後も、主体的な国家建設思想と路線を徹底的に具現して、人民政権をさらに固め、全般的国力を全面的に強化し、人民の運命と生活に責任を持って人民の権益を実現する自己の本分に限りなく忠実であろうとし、党の指導の下に興隆強国の





理想に向けて一心同体となって駆け付けてきた信念と努力を偉大な新しい勝利につないでいく今日の闘争で、皆が栄えある勝利者になろうと熱烈にアピールした。

朝鮮労働党の導く自主、自立、自衛の道、社会主義の一路に沿って、真の人民共和国の誇るべき歴史と伝統をしっかり固守し輝かせ、国家の全面的発展の新しい地平を切り開こうとする革命的立場と意志で燃える報告は、参加者と全国人民の熱烈な支持と賛同を受けた。

中央報告大会についで、金日成広場では、共和国創建75周年慶祝民間防衛武力の閲兵式が行われた。

閲兵式では、人民軍の頼もしい両翼部隊、後方防衛と郷土防衛の基本的勢力として成長し強化されて、全人民的・全国家的防衛体制を打ち固める上で大きな貢献をした革命武装力の威力を示しながら、首都党員師団縦隊と各道の労農赤衛軍縦隊、国家科学院と文化省、体育省、保健省の労農赤衛軍縦隊が歩武堂々と行進した。

ついで、全人民が銃剣を握り締め、全国が難攻不落の要塞に変わった強国の威力を轟かせながら、オートバイ縦隊、トラクター牽引の対戦車ミサイル縦隊、高射砲縦隊、偽装ロケット砲兵縦隊をはじめとする労農赤衛軍の機甲化縦隊が、侵略者に容赦なき鉄槌を下す万端の臨戦態勢を備えて広場を行進した。



閲兵式を通じて、平和なときには職場ごとで創造と建設の轟音を鳴り響かせ、一朝有事の際には全ての勤労人民が武器を手にして容赦なき懲罰の銃声、敵撃滅の恐怖の爆音を高らかに響かせていく全民抗戦の意志が余すところなく誇示された。

金日成広場では民間防衛武力の閲兵式についで、人民共和国の栄えある75星霜にささげる青年前衛のたいまつ夜会『偉大なわが国家のために愛国青年よ進め！』が行われた。

たいまつ夜会の参加者たちは、青年重視を国事中の国事として推し立て、青年の剛勇な気概の中で生々発展する強国の時代と燦然たる未来をもたらした偉大な領袖金日成主席と偉大な指導者金正日（キムジョンイル）国防委員長、敬愛する金正恩総書記の永久不滅の業績を称えなが



ら、「1948～2023」「永遠なる領袖」「百戦百勝」「強国」「為民献身」という文字と共和国旗の図形などを次々と繰り広げた。

数多くのたいまつで「全面的発展」「わが国家第一主義」「革命



熱」「闘争熱」「愛国熱」「革命信念」「500万」「決死貫徹」「愛国青年」などの文字を記しながら、前の世代から譲り渡された忠誠と愛国のバトンを受け継いで、社会主義愛国青年の呼び名を最も誉れ高く、最も誇らしく輝かせていく青年前衛の鉄石の意志を噴出させたたいまつ夜会は、「繁栄あれ祖国よ！」という荘厳な文字で終わりを飾った。

青年前衛のたいまつ夜会は、聖なる共和国旗に勝利と栄光のみを記してきた愛国衷情の歴史をしっかり受け継いでいく数百万の青年大集団があって、共和国の未来は無窮に洋々としていることを示した。

人民の歓喜と感激を募らせながら、9月9日夕、万寿台議事堂の前では慶祝大公演が盛況裏に行われた。

序曲『われらの国旗』の厳かなメロディーと共に、慶祝の夜空に国家の自主的尊厳と気概の象徴である共和国旗と「75周年」という文字を記して始まった公演舞台では、チュチェ朝鮮の建国と発展行路に高らかに響き渡った領袖頌歌、労働党賛歌と、真の人民の国を守り抜き、輝かせる道程で生まれた闘争の歌、創造の歌を思想・芸術的に立派に形象化した多彩な曲目が披露された。

出演者たちは、チュチェの航路に従い世代と世紀をついで守ってきた社会主義祖国を尽きせぬ情熱と知恵、奮闘によって輝かせていく全人民的な思想・感情を喜びに満ちた軽快な歌と舞踊で感銘深く披露した。

公演は歌謡『輝く祖国』、フィナーレ『われらの国旗』で終わった。

この公演を通じて、75年の長きにわたって百折不撓の気概の中で生々発展してきた共和国の歴史と不滅の栄光を一心団結、忠誠心の威力で永久に輝かせていく朝鮮人民の固い信念と意志が力強く示された。

この他にも、共和国創建75周年に際して中央研究討論会、中央写真展覧会、中央美術展覧会、切手展示会、国家図書展覧会などが有意義に行われ、青年中央芸能宣伝隊、職業総同盟中央労働者芸能宣伝隊、女性同盟中央芸能宣伝隊をはじめ、中央と地方の芸術団体が用意した多彩な公演によって、全国に慶祝の雰囲気が高まった。

朝鮮を訪れたアレクサンドロフ名称ロシア軍隊アカデミー協奏団が盛大な公演を行って、共和国創建記念日を迎える朝鮮人民を熱烈に祝った。

共和国創建75周年慶祝行事は、偉大な領袖の卓抜した思想と指導があり、党中央の周りに固く団結した人民大衆の団結の力があるため、共和国の前途には輝かしい勝利と栄光、限りない繁栄が広がる

であろうとの確信を与えた。

共和国創建75周年慶祝行事は、一心団結を第一の武器とし、歴史のあらゆる挑戦と風波を乗り越え、社会主義国家建設の輝かしい模範を生み出した誇るべき75年史を誉れ高く総括し、金正恩総書記の指導の下に自尊と繁栄の新時代を切り開く朝鮮民主主義人民共和国の尊厳と地位を全世界に誇示した政治的出来事であった。

共和国創建75周年慶祝行事は、金正恩総書記に対する朝鮮人民の熱烈な欽慕の念と絶対的な支持、総書記にのみあくまで従おうとする絶対不変の信念と純潔な道義心がどのようなものであるかをはっきりと示した。

共和国創建75周年慶祝民間防衛武力の閲兵式とたいまつ夜会を観覧したロシア軍隊協奏団のメンバーは、「金日成広場に集まった人々が金正恩総書記を仰いで熱烈に歓呼する姿に深く感動させられた」「自分の指導部の周りに団結した忠実な人々だけが、美しい生活を創造していくことができるのである。今日の行事に参加して明るく笑う朝鮮人民の姿を見ながら幸せを感じることができた」と語っている。

共和国創建75周年慶祝行事は、一心団結の威力で共和国の尊厳と自主権を守り抜き、国家興隆の新時代を切り開く朝鮮人民の剛勇な気概と意志を力強く示した。

主体的民間防衛武力の荘厳な閲兵式は、侵略者があえて襲いかかるなら、人民軍と肩を組み全民抗戦の力強い攻撃で残らず掃討しようとする朝鮮人民の敵撃滅の意志を示し、青年前衛のたいまつ夜会は、いつも真っすぐに前進する継承者たちの不屈の信念と戦闘的気概をはっきりと示した。

慶祝行事を通じて、高度の自発性と整然とした規律に基づく朝鮮人民の高い団結力と組織力、集団力の優越性もはっきりと示された。

共和国創建75周年慶祝行事は、人民に自主的な国家発展の立派な模範を生み出した強国、試練の中でも一層力強く未来を切り開いていく国家に対する大いなる誇りと自負を抱かせた。

75年の長い歴史に記された共和国の全ての勝利と栄誉は、まさに自尊という言葉と一つにつながっているということ、偉大な指導思想があり、共和国政権という強力な政治的武器があり、人民の愛国心と聡明な英知があるがゆえに、帝国主義との運命的な対決でも勝利し、朝鮮式富国強兵の新しい奇跡も生み出すことができたということを深奥な哲理として実証した中央報告大会は、人々に、自尊と尊厳こそは朝鮮が歩んできた歴史の縮図であり、強国の地位を獲得する強力な武器であることをはっきりと銘記させた。

片手には銃を、片手にはハンマーと鎌と筆を握り締め、祖国の富強・繁栄をしっかりと支えてきた民間防衛武力の閲兵式と全面的国家興隆のための闘争で社会主義愛国青年の高貴な称号を輝かせていく気概と情熱に満ちた青年前衛のたいまつ夜会は、人民に、いかなる勢力もあえて侮れない強者の自尊心と誇り、祖国の永遠なる勝利と明るい未来に対する確信を与えた。

自主の強国への道を切り開き、輝かせてきた祖国の誇らしい歴史を激動の年代の歌謡をもって謳歌した慶祝大公演も、尊厳ある強国の公民の誇りと自負で人々を感動させた。

共和国創建75周年慶祝行事は、人民に、共和国の限りない繁栄のために心魂を傾ける覚悟と熱意を高めさせた。

朝鮮民主主義人民共和国創建75周年慶祝行事は、自尊を生命より大事にし、それを守って前人未踏の道を英雄的に切り抜けてきた共和国の歴史を誇り高く総括した勝利者の大祝典、一心同体となって指導者に従う偉大な人民の力があって強固で前途洋々とした祖国の強大さと地位を誇示した一心団結の大祝典であった。

朝ロ親善の新たなページを開いた歴史的な出来事

反帝・自主勢力との団結と協力を強化するのは、朝鮮労働党の一貫した対外政策的立場である。

金正恩総書記は、ロシア連邦のプーチン大統領の招きにより、2023年9月12日から17日にかけてロシア連邦を訪問した。

金正恩総書記のロシア連邦への公式親善訪問は、朝ロ関係を新たな戦略的水準に引き上げ、国際政治地形の根本的な変化をもたらした歴史的な出来事であった。

米国と西側がロシアを支持・共鳴する国には制裁を加えると威嚇しており、そのためどの国もロシアへの公式的な支持をためらい、はては米国と西側の対ロシア制裁策動に同調している状況の下で、ロシアに支持を寄せることは容易に下せる勇断ではなかった。

金正恩総書記のロシア連邦訪問は、朝ロ関係を百年の大計の同志的関係、戦略的協力関係に定立し直す上で転換的な里程標をもたらした。

長い歴史と伝統を持っている朝ロ親善関係をさらに高い段階へと発展させるのは、両国人民の利益に合致するものである。

戦争中の自国に金正恩総書記を迎えるのが危険極まりないということをよく知っているロシア指導部は、総書記の安全保障に総力を傾けた。

金正恩総書記がロシア連邦に入った瞬間からロシア指導部は、朝ロ国境地域のハッサンからボストーチヌイ宇宙発射場、コムソモルスク・ナ・アムーレとウラジオストックに至るまで1100里余りの区間に膨大な武力を動員して鉄の警護陣を敷き、地上と空中、水中を封鎖し、行事場の安全確保のための立体的な作戦を展開した。金正恩総書記を迎える対象も護衛安全に有利な場所を定め、事前に綿密な対策を講じた。

プーチン大統領とロシア指導部は、金正恩総書記をどの国の国家元首とも比べられない最大の国賓として歓待した。

国境駅から公式国家歓迎儀式を盛大に行い、金正恩総書記が行く先々で中央と地方の幹部が総出で出迎え、全期間同行しながら参観を成功裏に保障した。

ロシア大統領は、ボストーチヌイ宇宙発射場の運搬ロケット組立・試験総合体の出入口で金正恩総書記を待ち受け、宇宙発射場で5時間以上も同行しながら誠意を尽くした。プーチン大統領が外国の国家元首とボストーチヌイ宇宙発射場を一緒に見て回り、自ら解説まで引き受けたのは初めてのことであった。

ロシア側の関係者たちは、この度プーチン大統領は金正恩同志に会うために東方経済フォーラムに参加した後、その足でボストーチヌイ宇宙発射場まで1000キロを飛んできた、金正恩同志が宇宙発射場に到着する30分前から現地で待っていた、これは、ロシア大統領としては前例のないことである、金正恩同志の今回の訪問のように全ての国家機関が総出で歓待したことは、ロシアの歴史上見られないことである、と率直な心情を打ち明けた。

プーチン大統領をはじめ中央と地方の多くの機関と団体、人士は、誠意を込めて用意した贈物を金正恩総書記に贈った。

金正恩総書記はロシア訪問中、数回にわたってプーチン大統領と会見した。

朝ロ首脳会談では、両国間の高位級往来をはじめとする各分野における多面的な交流と協力を発展させて、友好・団結と協力関係を一層強固にし、相互信頼を増進させ、共同の努力で両国人民の福祉を図り、総合的で建設的な両国関係を引き続き拡大していくことに

ついての満足した合意がなされた。

金正恩総書記は、プーチン大統領と共に安定的で未来志向的な新時代の朝ロ関係の百年の大計を構築し、その威力によって両国の強国建設偉業を強力に促し、真の国際正義を実現していく立場を表明した。

プーチン大統領は、朝鮮との協力関係を各分野にわたって多面的に拡大しようとする積極的な意向を表明した。

これについてロシアと世界の専門家たちは、プーチンが朝鮮と軍事技術協力はもちろん、各分野にわたって関係を発展させるために実質的に取り組んでいると分析した。

金正恩総書記の歴史的なロシア連邦訪問は、朝ロ間に反米連合戦線を形成することによって米国とその追随勢力に大きな打撃を与えた。

反米・自主を志向する国々の国際的団結と協力を強化するのは、米国の強権と専横を制圧し、国際正義を実現する上できわめて重要な問題である。

ロシアを一方とし、米国とその同盟勢力を他方とする列強間の「新冷戦」気運が極に達している時期に金正恩総書記が断行したロシア訪問は、世界的な核列強である朝鮮とロシア間の戦略的・戦術的協同を強化してロ米間の勢力構図を完全に逆転させ、世界の力関係を変えられる重大な契機となった。

ロシア指導部は、金正恩総書記に国家機密に属する戦略的対象まで参観させ、朝鮮との軍事技術的協力を強める意志を公然と表明した。

プーチン大統領は、それまでどの国の国家元首にも公開していなかった宇宙発射場を金正恩総書記にだけは全部参観させて詳細に説明した。ロシア側は、金正恩総書記がガガーリン名称コムソモルスク・ナ・アムーレ飛行機工場を参観するときには、工場で生産される「スホーイ35」戦闘機だけでなく、内部構造や操縦パネルが特級機密となっている第5世代戦闘機「スホーイ57」をそのまま見せた。

そして、「スホーイ35」戦闘機のテスト飛行も特別に参観させ、クネビチ軍用飛行場と太平洋艦隊基地を見て回るときには、各種の戦略爆撃機と多目的戦闘機、追撃機、襲撃機などロシア空軍が装備している最新鋭軍用機とフリゲート艦などの新しい艦船を参観させ、具体的に説明した。

外国のメディアはこれについて、ロシアは自国の飛行隊と艦船を全て金正恩指導者に公開した、ロシアが金正恩指導者のために武器展示会を行っている、これは確かに金正恩指導者への最高の歓迎を意味する、ロシアの武器を査閲する金正恩指導者の姿を見て驚くばかりである、と報じた。

敵対国の専門家と言論は、朝鮮と軍事同盟を結ぼうとするロシアの熱意はきわめて強い、西側を狙う恐ろしい結合が形成された、と評した。

金正恩総書記はプーチン大統領との会見で、人類の自主性と進歩、平和な生活を侵そうとする帝国主義者の軍事的威嚇と挑発、強権と専横を粉砕するための共同戦線で両国間の戦略的・戦術的協同を一層緊密にし、強力に支持・連帯しながら力を合わせて国家の主権と発展利益、地域と世界の平和と安全、国際的正義を守っていくことについて満足した合意と見解の一致を見た。

朝ロ間の反米共同戦線が形成されたことで、米国の対朝鮮・対ロシア圧迫政策は四面楚歌の窮地に陥るようになった。

結局、朝ロ協力関係の拡大・発展は、米国の対朝鮮・対ロシア圧迫構図を同時に打ち崩すことのできる新しい致命的な戦略的変数として浮上し、米国にとっては今一つの治癒不可能な戦略的頭痛の種が生まれるようになった。

ロシアのメディアと専門家は、金正恩総書記のロシア訪問は朝ロ中三角関係の戦略的及び同盟者としての性格を浮彫りにし、反米共同戦線を強固にしたと評した。

4 国家防衛力強化の全盛期

2023年は朝鮮の国家防衛力、核戦争抑止力の強化において飛躍の全盛期を切り開いた画期的な年である。

朝鮮人民軍は効果的かつ威力ある軍事訓練を断行して、反共和国核戦争の脅威を極大化したアメリカ帝国主義と韓国の傀儡好戦分子に断固たる対応意志と実際の戦争抑止能力を認識させ、地域の平和と安全をしっかりと守り抜いた。

初の戦術核攻撃潜水艦の誕生とチュチェ兵器の開発・生産における急進的な跳躍によって、共和国核戦略武力の信頼性を誇示し、敵対勢力を大きな脅威と恐怖の中に追い込んだ。

人民軍は、国家防衛の主体としてのみではなく、人民の幸福の創造者として社会主義建設の各戦場で不可能を知らない軍隊の戦闘的気概と威力を余すところなく発揮することによって、国家の発展道程に大きな偉勲を残した。

特に初の軍事偵察衛星の打ち上げを成功させた快勝を遂げて、名実共に強国の地位を世界に強く宣揚した。



敵撃滅の対応意志を認識させた軍事訓練

核には核をもって、正面対決には正面対決をもって応えるのは、朝鮮労働党と共和国政府の確固たる対敵意志である。

2023年、人民軍は数回にわたって実戦化された軍事訓練を断行して、情勢を極度の危険ラインへと追い込んだアメリカ帝国主義と大韓民国の好戦分子の戦争挑発策動をことごとく無力化させ、国家興隆の新時代を切り開くための人民の力強い闘争を軍事的に確実に保証した。

人民軍の軍事訓練で重要なのは、まず、敵対勢力の核戦争挑発策動を徹底的に制圧・粉砕するための核打撃訓練を攻勢的に、連続的に行ったことであった。

アメリカ帝国主義と大韓民国一味は、2023年に入って朝鮮に対する核兵器の使用企図をあらわにし、ついで核先制攻撃を既成事実化した「拡張抑止運用演習」、大規模の合同軍事演習「フリーダム・シールド」、史上最大の連合上陸訓練「双竜」などの核戦争演習に狂奔しながら情勢を統制不能の核戦争臨界点へと追い込んだ。

「政権の終焉」「斬首作戦」「平壌の占領」を公然と云々しながら強行する敵の様々な危険極まりない核戦争挑発策動、核予備戦争に、人民軍は超強硬の軍事的対応措置をもって応えた。

2023年2月18日、第1赤旗英雄中隊が大陸間弾道ミサイル「火星砲―15」型を利用した不意の奇襲発射訓練を成功裏に断行し、20日には朝鮮人民軍西部戦線長距離砲兵部隊管下のロケット砲兵火力区分隊が威力ある戦術核攻撃手段である600ミリ超大型ロケット砲をもって仮想標的に向けて発射訓練を行うことによって、空中優勢を誇っていたアメリカ帝国主義と傀儡韓国の連合空軍武力に対する人民軍の圧倒的な抑止準備態勢を余すところなく誇示した。

2月23日と3月22日には、戦略巡航ミサイル部隊が戦略巡航ミサイル地上発射訓練を、3月12日には潜水艦による戦略巡航ミサイル水中発射訓練を断行して、兵器システムの信頼度と各部隊の迅速対応態勢を遺憾なく示した。

特に、金正恩総書記の直接の指導の下に数回にわたる核反撃訓練を成功裏に行って、核戦争策動に狂奔する敵対勢力に引き続き強打を加えた。

3月9日、西部戦線の火星砲兵部隊管下区分隊は、部隊を現地視察した総書記の訓練命令を受けて、敵の作戦飛行場の主要要素を想定して設定された朝鮮西海上の目標水域に威力ある一斉射撃を加えて、自分の実戦対応能力を誇示した。



戦略巡航ミサイルの発射訓練

共和国核戦闘武力は、3月16日には大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型発射訓練を、3月18日と19日には核反撃想定総合戦術訓練を次々と断行して、無責任かつ無分別な軍事的威嚇を執拗に追求している敵対勢力の策動により厳重な警告を発した。

敵対勢力の反共和国核戦争策動に対応した共和国核戦闘武力の実戦化された軍事訓練は、3月についで8月と9月にも行われた。

人民軍の軍事訓練で重要なのはまた、敵対勢力の反共和国全面戦



「火星砲—17」型の発射訓練

争企図を戦略的・戦術的に制圧するための全軍的な指揮訓練を実戦状況の下で強力に行ったことである。

朝鮮人民軍総参謀部は、米国と傀儡韓国軍部のごろつきが共和国との全面戦争を想定した危険極まりない大規模連合訓練を強行している状況に対処して、8月29日から全軍指揮訓練を行って、各級大連合部隊、連合部隊の指揮官、参謀部の作戦組織と指揮能力を判定・点検した。

敵の不意の武力侵攻を撃退し、全面的な反功撃に移って大韓民国の全領土を占領することを総体的目標とした指揮訓練は、全軍の全ての指揮官、参謀部が戦時体制に移行するときの行動秩序に熟練し、作戦・戦闘の組織と指揮能力を一層高め、作戦計画の現実性を確定することによって、臨戦態勢と軍事的対応能力を手抜かりなく整えることを目的にして行われた。

人民軍指揮メンバーは、命令が下れば直ちに敵を容赦なく壊滅させ、勝利を収めるという敵撃滅の意志をもって、指揮訓練を実戦状況の下で強力に行った。

人民軍の超強硬の軍事行動は、敵対勢力の核戦争危険から国家の安全と地域の平和を守り、核強国、軍事強国の尊厳と威容を力強く宣揚した

一大壮挙であった。

現実は、米国の核威嚇を制圧しうる根本要因は、核武装化そのものにあるのではなく、核武力を導く指導者の胆力と気概にあるということを示している。

2023年、「拡大抑止力」の強化という美名の下にアメリカ帝国主義が傀儡韓国に搬入した殺人装備は、核戦略爆撃機「B—52」「B—52H」「B—1B」とステルス戦闘機「F—22」「F—35B」、無人戦闘機「MQ—9リーパー」、原子力空母と原子力潜水艦、イージス艦をはじめ膨大な核戦略資産であり、核戦争演習も歴代最大規模で行われた。

金正恩総書記は、数回にわたって党中央軍事委員会拡大会議を指導しながら、国の戦争抑止力をより効果的に行使し、威力的に、攻勢的に活用するための重大な実践的措置と軍事的対応案を討議・決定し、強く実行するようにした。

人民軍はアメリカ帝国主義の核戦争挑発策動を水泡に帰させる実戦訓練を次々と断行して、共和国武力が侵略者にどれほど凄絶な敗北を与えることができるかを実際に示した。

人民軍は最も時宜にかなったときに、最も合理的な手段と方法で実戦訓練を断行して最大の成果を上げた。

敵の動きとあり得る挑発を鋭く注視していた人民軍は、軍事訓練を、敵に致命的な打撃を与えられる最適の時期に、最も効果的な手段と打撃方式、訓練形態などを綿密に計算し、実戦を模擬して強力に行った。

代表的なのは2月19日、敵が戦略爆撃機「B—1B」とステルス戦闘機「F—35」など10余の戦闘機を投入して連合空中訓練を開始したとき、それに対応して2月20日に行った超大型ロケット砲射撃訓練である。

同日、人民軍は敵の作戦飛行場一つ当たり1門、4発を割り当てるほどの恐るべき威力を誇る戦術核攻撃手段である600ミリ超大型ロケット砲をもって、それぞれ計算された395キロと337キロ射程の仮想標的に向けて砲撃訓練を行い、傀儡韓国一味はこの訓練が群山米空軍基地と清州空軍基地に対する打撃を想定した訓練であると騒ぎ立てた。

人民軍はまた、全ての軍事訓練を強力な実用的実動訓練として行った。

核反撃訓練の段階と順序を定め、軍人たちが核攻撃へ迅速に移行するための行動秩序と戦闘組織法に完全に熟達するように反復訓練も行った。

人民軍の軍事訓練は、核には核で、正面対決には正面対決で応える人民軍の対応意志と実質的な報復能力を今一度認識させ、敵対勢力を不安と恐怖に連続的に追い込んだ。

朝鮮人民軍は、核先制攻撃や核反撃にも、局部戦や全面戦争にも全て準備されており、あえて敵対勢力が冒険的な核戦争を強行しようとするなら先制的で、超強力な核打撃を一気に加えて容赦なく懲罰するであろうというのが、2023年の軍事訓練を通じて示した朝鮮の断固たる宣言であった。

大陸間弾道ミサイル「火星砲—15」型、「火星砲—17」型の発射訓練、戦略巡航ミサイルの地上及び水中発射訓練、600ミリ超大型ロケット砲の射撃訓練、核反撃想定総合戦術訓練など、共和国核戦闘武力の実戦化された訓練は、多種多様な核打撃手段が投入されて様々な発射点で、様々な時間に、様々な方式で次々と行われた。

訓練を通じて、敵対勢力が戦略資産を大々的に搬入し、核戦争演習を強行すればするほど、朝鮮は核武力を絶えず増強して一層攻勢的な超強力対応態勢で懲罰するであろうし、核戦争狂は米本

土にあろうと、空と地、海にあろうと関わりなく、朝鮮人民軍の容赦ない核打撃を免れないであろうということを今一度はっきり認識させた。

3月18日と19日に行われた朝鮮人民軍戦術核運用部隊の核反撃想定総合戦術訓練について、米国内では核弾頭使用を想定した空中爆発訓練は破壊力を極大化する方式である、対朝鮮核先制攻撃が開始される前に朝鮮が迅速に核反撃用ミサイルを発射するであろう、典型的な核攻撃方式である、朝鮮の弾道ミサイル能力の強化によって米国のミサイル防衛システムが無力化する恐れがあるという悲鳴が上がった。ある国のメディアが、朝鮮の大陸間弾道ミサイルが発射後33分で米国の中部を打撃することができると報じると、米軍部は再び核恐怖症、ミサイル恐怖症におののいた。

傀儡韓国のメディアも、米国が核挑発を強行すれば、朝鮮は相応の報復核攻撃で米本土の重要な部分を攻撃するだろう、「即刻的・圧倒的・決定的対応」というバイデンの発言は不安におののく尹錫悦「政権」を安定させるための「慰安発言」、甘言式約束にすぎないと評したし、水中で発射されるミサイルは発射前にはとうてい探知しがたく、発射後にもミサイル防衛を避けるために低空飛行をしたり、飛行中制御もできるので、これが憂慮される点であるとしながら、極度の安保不安心理をあらわにした。

人民軍の軍事訓練は次に、人民軍の戦争抑止力、戦争遂行能力を一段と向上させ、人民に大きな鼓舞と勝利の信念を与えた。

数回にわたる核打撃訓練を通じて各種兵器システムの信頼度が再確認され、共和国核戦闘武力の実戦能力が向上した。

特に、3月18日と19日に行われた核反撃想定総合戦術訓練を通じて、様々な仮想的な緊急状況の下で核攻撃命令の下達及び受入れ手順の正確さと核兵器の取扱秩序、相異なる核攻撃方案に従う稼働手順を厳しい安全性の見地で点検し、核戦闘武力が核攻撃へと迅速に移行するための行動秩序と戦闘組織法に熟練することによって、朝鮮の核対応能力は一層完成した実戦能力として整えられた。

実戦訓練を通じて一段と強化された人民軍の戦争抑止力、戦争遂行能力は、全ての人民に強国の一員という自負を与え、勝利の確信を抱かせた。

核戦争狂に容赦ない鉄槌を下すための痛快な実戦訓練を目撃しながら朝鮮人民は、厳しい苦難と試練を乗り越えて核武力を建設したことが全く正しい選択であり、核抑止力を全面的に強化していく道に幸せな生活と未来があるということを改めて確信した。

朝鮮人民軍は今後も、戦争抑止力を破壊的な威力としてさらに向上させ、圧倒的な核対応態勢で戦争狂の対決妄想をことごとく制圧・粉砕し、国家の自主権と人民の安泰、地域の平和と安定をしっかり守っていくであろう。

人民軍の決死貫徹の気概は経済建設でも

党中央の命令・指示に対する絶対服従、絶対忠誠は、朝鮮人民軍特有の闘争気質、闘争気概である。

人民軍は2023年にも国家防衛だけでなく、災害復旧と社会主義建設の主要部門で革命的気概を余すところなく発揮した。

戦争ばかりでなく、災害復旧をはじめ突発的な非軍事的任務にも能動的に対処して人民の利益を守り、国の財産を守護するのは人民軍の本分である。

8月10日、江原道安辺郡梧渓里一帯では台風6号による豪雨に襲われた。急速に増えた渓谷の水と海から押し寄せる津波が合わされて

河川堤防を決壊させ、梧渓農場と月浪農場の250余ヘクタールの水田が浸水する重大な事態が生じた。

緊急命令を受けた人民軍は、被災地に駆け付けて即時復旧に突入し、12時間ぶりに崩れた堤防を修築して水田に押し寄せる水の流れを完全にせき止め、農作物の生育状態を改善するための決死の努力を傾けた。

人民軍は、南浦(ナムポ)市温泉郡石峙(ソクチ)里地域に位置した安石(アンソク)干拓地堤防が崩れて数百ヘクタールの水田が浸水したときにも、即時に被害復旧に電撃的に進入して短期間に被害を最小化し、自然の狂乱から国の財産を守った。

2023年に人民軍はまた、社会主義大建設現場で人民のための記念碑的建造物を次々と打ち建てた。

和盛地区第1段階の1万世帯住宅建設に参加した軍人建設者は、受け持った建設対象だけでなく、追加の2000余世帯分の住宅を立派に完工し、基壇層工事、道路工事、合掌江(ハプチャンガン)護岸工事、下部構造工事、周辺整備などを完璧に完了し、4月16日には金正恩総書記の臨席の下に竣工式が盛大に行われるようにした。

和盛地区第2段階住宅建設に参加した軍人建設者は、工事量の大部分を引き受けてスケールの大きい立体戦、熾烈な徹夜戦を展開して首都に今一つの理想的な市街を打ち建て、検徳地区に駆け付けた軍人建設者も2023年度に計画されていた数千世帯分の2、3階建ての住宅、多層アパートの建設を電撃的に推し進めて素晴らしい山岳峡谷都市を立派に打ち建てた。

江東(カンドン)総合温室農場の建設に参加した軍人建設者は、首都市民の食生活を向上させようとする党の気高い意図を体して献身的な努力を傾けて江東地区に新しい「農場都市」を立派に打ち建て、海岸防潮堤工事と康翎湖淡水化工事、灌漑用水路工事、農村支援に投入された軍人たちも与えられた課題を成功裏に終え、農村振興の確固たる保証をもたらした。

2023年に人民軍は、壮大な創造大戦で党中央の構想と命令であれば必ず繁栄の実体を作り出す革命軍隊の不屈の前進気概と戦闘力を力強く誇示した。

首都と検徳の住宅建設と江東総合温室農場の建設、農村支援と灌漑建設など人民軍が引き受けた社会主義建設課題はきわめて膨大で、その過程には予想外の困難も多かった。

命令の貫徹で「無条件」「徹底的に」「正確に」という言葉しか知らない人民軍軍人は、社会主義建設の主要部門で創造と建設の力強い闘争を繰り広げて不可能を可能に変え、奇跡と勝利を必然のものにした。

和盛地区の住宅建設に参加した軍人建設者は、モルタルづくり場にボイラーを設置し、電気によるモルタル養生法を導入して零下20度を上下する酷寒の中でも工事を力強く推し進め、江東総合温室農場の建設に当たった軍人建設者は、石材が切れると小高い山をそっくり崩して解決し、昨日の250パーセントの実績を今日の100パーセントの基準として力強い突撃戦を展開し、首都の市民に提供する素晴らしい創造物を打ち建てた。

安辺平原の災害復旧に進入した軍人たちは、数十キロの砂袋を担いで作業区間を10時間余りも休みなく走り続けて崩れた堤防区間を埋めていき、水の流れが巨岩もまたたく間に押し出すほど荒れると、何の命令も下らなかったが、兵士や将官を問わず皆がためらいなく飛び込んで互いに肩を組み、堤防の礎を一つ一つ築いた。

人民軍の決死の実践闘争によって、厳しい環境と条件の下でも社会主義建設の主要部門では人民が喜ぶ繁栄の実体が次々と生まれた。

2023年に人民軍は、壮大な創造大戦を通じて全国の人民に、祖国をいかに愛するべきかを実践をもって示し、彼らを自覚・奮発させた。

社会主義建設の主要部門で人民軍軍人が戦闘的気質と気概を遺憾なく発揮した過程は、単に建築物を打ち建て、農作物を守る過程ではなかった。

それは、祖国にささげる真心と献身がどのようなものかを人々にじかに示し、教えた過程であった。

安辺郡の梧渓農場と月浪農場の幹部と農場員は、氾濫する泥水が押し寄せて稲が熟れはじめた水田が瞬時に冠水すると、苦労して作った穀物と土地が台無しになったと気を落としているだけで、その田畑に立派な作柄がもたらされるとは全く考えなかった。

しかし、人民軍軍人の熱烈な祖国愛によって、冠水した水田では前年より高い収穫を収める奇跡が生み出された。

緊急命令を受けて被害復旧に進入した人民軍軍人の姿を目撃した安辺郡の幹部と人民は、「党中央の命令・指示は同じ時間に受けたが、実行においては主人のわれわれより軍人たちが何時間も速いでした。即時受入れ、即時実行という言葉の真意を、われわれはそのときに痛感しました」と激情と自責の念に駆られて語った。

水田に押し寄せる水をわが身でせき止め、水に浸った稲株から泥を洗い流す軍人たちの気高い精神世界と仕事ぶりを見て、安辺郡の住民と全国の人民は、祖国の財産を自分の体の一部分のように大事にする愛国の実践がどんなものであるかを深く実感した。

社会主義建設の最も危険で困難な部門に駆け付けて決死貫徹の精神と愛国衷情の一念をもって祖国の財産を守り、人民のための創造物を数多く打ち建てた人民軍軍人の犠牲的な闘争は、全国の人民を

今一度精神的に成長させた。

それゆえ、人民は「人民のために生命を賭して自然を手なずけるわが軍の闘争気概を今一度はっきり見た」「われわれ皆が人民軍の闘争精神、闘争気風を見習うなら、やり遂げられないことは何もない」とし、人民軍のように祖国を愛し、富強な明日を早める覚悟と決心を固めた。

初の軍事偵察衛星「マンリギョン―1」号

2023年に国家防衛力強化のための朝鮮労働党と人民の英雄的闘争の道程にもたらされた最も驚異的な成果は、初の軍事偵察衛星が生まれたことである。

11月21日、朝鮮の初の軍事偵察衛星「マンリギョン（万里鏡）―1」号が打ち上げられた。

平安北道鉄山（チョルサン）郡の西海（ソヘ）衛星発射場で打ち上げられた新型衛星運搬ロケット「チョンリマ―1」型は、予定軌道を飛行して発射後705秒に偵察衛星「マンリギョン―1」号を軌道に正確に進入させた。

金正恩総書記は、偵察衛星の開発と発射の全過程を指導し、11月22日と24日、25日、国家航空宇宙技術総局の平壌総合管制所を訪れ、軌道に進入した偵察衛星が太平洋グァム島のアンダーセン空軍基地とアプラ港、真珠湾の海軍基地とホノルルのヒカム空軍基地をはじめとする米軍の主要軍事基地と木浦、群山、平沢、烏山、ソウル、鎮海、釜山、蔚山、浦項、大邱、江陵など重要標的を撮影した航空宇宙写真を見て、偵察衛星運用の準備状態を点検した。

総書記は、11月27日の午前と28日の未明、29日にも国家航空宇宙技術総局の平壌総合管制所から、偵察衛星が太平洋グァム島のアンダーセン空軍基地を撮影した資料、米国バージニア州ノーフォーク

海軍基地とニューポート・ニューズ造船所、飛行場地域を撮影した資料、ワシントンのホワイトハウス、ペンタゴンなどの対象を撮影した資料、米本土のカリフォルニア州のサンディエゴ海軍基地を撮影した資料、日本沖縄県の嘉手納空軍基地を撮影した資料について具体的な報告を受け、偵察衛星運用準備を着実に進めていることに大きな満足の意を表した。

初の軍事偵察衛星の誕生は、祖国の歴史に特記すべき民族史的出来事であった。

宇宙科学技術を発展させるのは軍事強国、経済及び科学技術強国の地位を確保するための早道を開く上で中核的な要素、総合的国力の示威となる。

特に、アメリカ帝国主義が膨大な核戦略資産を朝鮮の周辺に常時配置水準で展開し、大韓民国を侵略の前哨基地、戦争火薬庫に変えており、連合準備態勢なるものを口実に共和国の自主権と領土保全を脅かす軍事行動を一層あらわにしている実態は、宇宙国防科学技術を急速に発展させ、軍事偵察衛星を保有することを緊迫した要求として提起した。

朝鮮労働党第8回大会では、近い内に軍事偵察衛星を保有することを国防力発展5大重点目標の一つ、国家防衛力建設の最も重大な先決の課題として打ち出した。

また、朝鮮労働党中央委員会第8期第6回総会では、最終段階で推し進めている偵察衛星と運搬発射体の準備を手抜かりなく推し進めて、最短期間内に初の軍事衛星を打ち上げることを2023年度核武力及び国防発展戦略の核心課題として提示した。

実際、宇宙進出歴史の浅い共和国にとって、宇宙軍事技術の精粋、先端科学技術の総合体である軍事偵察衛星を開発するのは困難を極める草分けの道であった。

2022年3月8日、国家宇宙開発局（当時）を訪れて宇宙国防科学技術目標達成のための科学研究及び開発実態についてつぶさに確かめ、当該部門幹部と科学者、技術者が一致団結し緊密に提携・協力して党の定めた期間内に朝鮮式の偵察衛星開発を立派に完遂するようにした金正恩総書記は、3月10日には西海衛星発射場を訪れて、今後軍事偵察衛星をはじめ多目的衛星を多様な運搬ロケットで打ち上げるように近代的に改造・拡張し、発射場の諸要素を新設する課題を与え、その実現方途を具体的に示した。

2023年4月18日、国家宇宙開発局を再度訪れて軍事偵察衛星の保有が自衛的国防力の強化において果たす役割と戦略的価値、その意義について改めて強調した総書記は、製作・完成された軍事偵察衛星1号機を所定の時日内に打ち上げるように最終準備を早期に完了し、今後連続的に数個の偵察衛星を多角配置し、衛星による偵察情報収集能力をしっかり構築することについて強調した。

総書記は5月16日、非常設衛星打ち上げ準備委員会を訪れて、総組立状態の点検と宇宙環境試験を最終的に終え、搭載準備の完了された軍事偵察衛星1号機を見て回った。

党と国家の最大の期待と関心が集中した中、5月31日、宇宙開発部門で軍事偵察衛星を打ち上げたが、残念にも失敗した。

総書記は、軍事偵察衛星の開発で現れた欠点を厳正に総括し、宇宙科学部門と国防科学部門の幹部と科学者が重大な使命感を肝に銘じ、打ち上げ失敗の原因と教訓を徹底的に分析すると共に、早い内に軍事偵察衛星打ち上げを成功させるように指示し、彼らに信頼を寄せ、励ました。

ついに朝鮮は自分の力と技術によって航空宇宙偵察能力を培い、軍事偵察衛星を保有するようになり、共和国武力は万里に及ぶ強力な「拳」と共に万里を見渡す「目」を手にすることができた。

11月22日、朝鮮民主主義人民共和国国家航空宇宙技術総局の平壌総合管制所を訪れた総書記は、軌道に進入した偵察衛星の作動状態と精密制御状況、地上の指示による特定地域に対する航空宇宙撮影状況を確かめ、強兵現代化建設偉業に実践的成果をもって寄与した宇宙科学研究部門の科学者、技術者の貢献を高く評価した。

初の軍事偵察衛星「マンリギョン—1」号は、チュチェ朝鮮の国宝クラスの戦略資産である。

偵察衛星打ち上げは自衛権強化に関する朝鮮民主主義人民共和国の合法的権利であり、敵対勢力の危険極まりない軍事的蠢動によって朝鮮と周辺地域に生じている安全環境に合致するように共和国武力の臨戦態勢を確実に向上させる上で大きな意義を持つ歴史的な出来事であった。

初の軍事偵察衛星の誕生は、何よりも国の戦争抑止力、軍事的対応能力を画期的に向上させ、国家の安全と領土保全を守る上で大きな歩みを踏み出した特筆大書すべき出来事であった。

軍事偵察衛星を開発・運用するのは、情報の収集と分析、処理が先端装備に頼ってリアルタイムで行われている現代戦に能動的に対処する上で、きわめて重要な軍事戦略的意義を持っている。

特に、アメリカ帝国主義とその追随国軍隊の行動性格を徹底的に監視・掌握する問題は、国家の安全と直結している深刻な問題である。

共和国武力の迅速な軍事的対応能力と戦争遂行能力を完備するためには、いかに高価な代価を払っても、軍事偵察衛星という支配的目標を必ず達成しなければならなかった。

軍事偵察衛星を宇宙の監視兵、威力ある照準鏡として配備したことで、大韓民国と共和国武力の作戦上の関心地域に対する偵察能力を引き続き確保できるしっかりした保証がもたらされ、全地球圏打

撃能力を保有した人民軍の威力は一層強化されるようになった。

初の軍事偵察衛星打ち上げの成功によって、これ以上偵察衛星が敵対勢力の独占物でないことが厳然たる現実となった。

今後、数個の衛星による偵察情報収集能力を構築すれば、人民軍は敵に対する価値ある情報をリアルタイムで十分に提供されるようになり、敵情に応じて対象と時間、手段と方式を正確に選択して敵対勢力に凄絶かつ効率的な打撃を加えるようになる。

初の軍事偵察衛星の誕生は次に、国家の自衛権を堂々と行使し、国威を宣揚し、宇宙開発分野の飛躍的発展のための早道を開いた。

偵察衛星の開発は、単なる科学研究活動、偵察情報収集手段の開



発である前に、国家の自主的権利と国益を守る活動であり、堂々たる自衛権の行使であると同時に国威の宣揚となった。

米国は反共和国核戦争企図をむき出しにし、多大の装備と手段を朝鮮の内部の動きを探知するのに指向させ、朝鮮に対する偵察情報を追随勢力と共有している。

安全環境の要求からしても、展望的な脅威を管理する見地からしても、共和国の偵察衛星の開発は、少しも譲歩することができず、一瞬たりとも中断してはいけない正当防衛権の堂々たる行使であった。

初の軍事偵察衛星「マンリギョン―1」号の誕生は、偵察衛星の開発は決して放棄することも、おろそかにしたり何かと換えることもできない徹頭徹尾、国家主権と正当防衛権に属するということをはっきり認識させ、軍事強国としての地位を世界に誇示した歴史的壮挙であった。

宇宙分野の加速的前進を遂げて国を宇宙強国にするのは、朝鮮労働党と共和国政府の確固たる立場である。

朝鮮労働党は歴史的な2013年3月総会で、経済建設と核武力建設の並進路線を打ち出し、宇宙科学技術の発展に力を入れて通信衛星をはじめ各種の実用衛星をより多く開発し、打ち上げるという課題を示した。

宇宙科学研究部門と国防科学研究部門の幹部と科学者、技術者は、第8回党大会と党中央委員会第8期第5回、第6回総会で示された宇宙政策の当面の目標と展望目標を達成するための粘り強い取り組みを展開して、核心宇宙科学技術の研究で大きな成果を達成し、それに基づいて初の軍事偵察衛星の打ち上げを成功させた。

これで気象観測衛星、地球観測衛星、通信衛星をはじめ実用的な様々な用途の衛星開発を持続的に力強く推進できる貴い経験と土台が築かれた。

戦術核攻撃潜水艦の誕生

艦船の核武装化は、朝鮮人民軍海軍を、祖国と人民の安寧を揺るぎなく守り、地域と世界の平和と安全を頼もしく守ることのできる軍種集団として強化・発展させていく上で必須不可欠の問題である。

2023年9月6日は、戦術核攻撃潜水艦が誕生した民族史上の大慶事の日であり、朝鮮の海軍武力が自分の発展の飛躍期を迎えた日であった。

同日、金正恩総書記の臨席の下に、朝鮮の労働者階級が創建75周年を迎える祖国に贈る初の戦術核攻撃潜水艦の進水式が盛大に行われた。

戦術核攻撃潜水艦第841号「金君玉英雄（キムグンオク）」艦は、新しい攻撃型潜水艦であり、既存の中型潜水艦を戦術核攻撃潜水艦に改造する事業の初の実体であり、標準型であった。

海軍の戦略と国家防衛戦略、戦争計画の軍事戦略的要求を満たせるように設計されたこの潜水艦は、様々な威力の核発射手段を多数搭載し、任意の水中で敵国に対する先制・報復攻撃が可能な威嚇的な手段である。

朝鮮労働党は将来的な核潜水艦建造計画とは別途に、既存の中型潜水艦を全てこのように現代戦で重大な役割を果たす戦術核攻撃潜水艦に改造するという独創的な構想を示した。

第2次世界大戦後、核潜水艦が出現してから今日まで、核潜水艦と言えば核を動力として利用するものと認識され、通称作戦能力と評価される動力体系と潜航速度、航海装備水準などが重要視されてきた。

しかし朝鮮労働党は、潜水艦にどんな武装を搭載するかがキーポイントであり、核兵器を装備すればそれはすなわち核潜水艦であるという独創的な見解から出発して、戦術核潜水艦を低費用で最も速やかに作れる名案を示した。

初の戦術核攻撃潜水艦の誕生は、労働者階級の献身的闘争の立派なたまものであった。

朝鮮の労働者階級は、海軍武力の将来と祖国の安全が決定される重大な起点で、朝鮮労働党の重大決心を絶対的に支持し、燃えるような愛国忠誠をもって応じた。

労働者階級の献身によって朝鮮の初の水中核攻撃艦船が誕生し、祖国の神聖な領海に進水する偉大な勝利がもたらされた。

初の戦術核攻撃潜水艦の誕生は、海軍の急速な戦力拡大と共に、核抑止力を主軸とする国家防衛力の飛躍的な向上を約束する出来事であり、試練の中でしっかりと打ち固めてきた強大な国力の一大示威であった。

初の戦術核攻撃潜水艦の誕生は何よりも、チュチェの海軍武力強化の新しい全盛期の序幕を開いた。

国家の地政学的特殊性と急速に進化する世界的な艦船発展趨勢からしても、敵の侵略的企図と軍事行動の性格からしても、海軍武力の急速な発展は、それ以上遅らせることのできない国家防衛の重大事であった。

立体的に繰り広げられる海戦に主動的に対応し、海上での自衛権を確実に行使するためには、海軍の確固たる思想的・精神的優勢に軍事技術的成長が必ず伴い、追い付くべきであり、ここで最も重要な問題がまさに核武装であった。

第8回党大会が示した海軍武力強化路線を貫徹するための闘争に総奮起した軍需工業部門の労働者と国防科学部門の科学者、技術者は、祖国と革命、人民のための愛国の道で一瞬たりとも動揺したり落胆したりすることなく、自分の全てをささげて戦術核攻撃潜水艦を建造した。

既存の中型潜水艦を攻撃型に改造する党の構想が具現された戦術核潜水艦の標準型が作られた結果、海軍の武力装備が数十年の進歩を遂げる特筆大書すべき出来事が起こり、海軍の核武装化の実現で意味のある前進が遂げられた。



初の戦術核攻撃潜水艦の誕生は次に、海洋でアメリカ帝国主義の核戦争挑発策動を先制して制圧できる転機を開いた。

これまで朝鮮の艦船工業部門では、領海の防衛にのみ限られていた海軍の使命に即して、敵の攻撃を一撃の下に撃退できるように準備させる方向で小型潜水艦の建造に注力していた。

しかし、時代は大きく変わり、海軍の武力装備と作戦様相も変わった。

世界の大洋を意のまま巡回しながら核の威嚇をこととするアメリカ帝国主義の傲慢無礼な行為に終止符を打ち、国家の安全を確実に保障するためには、領海に対する侵犯を防ぐだけでなく、海中の任意の場所で侵略者に致命的な打撃を与えられるように徹底的に準備しなければならないということが朝鮮労働党の決心であり、意志である。

朝鮮の野心満々な航行は、まさに戦術核攻撃潜水艦の誕生で初のいかりを上げた。

海軍の新しい姿を見せる戦術核潜水艦の出現によって、この数十年間、共和国に対する侵略の象徴物と見なされていた核攻撃潜水艦という手段が、今や破廉恥な敵を恐怖におののかせる威嚇的な朝鮮の力を象徴するようになった。

朝鮮の戦術核攻撃潜水艦の誕生によって、アメリカ帝国主義の海洋覇権に破裂口が生じ、海洋での朝・米の力関係においては新しい変化が起こりはじめた。アメリカ帝国主義は、自分らがそれほどまでに望まず、一番恐れていた現実に直面せざるを得なくなり、やがて崩壊する海洋覇権を痛感するようになった。

海軍の核武装化を目指す朝鮮の進軍はより加速化するであろう。

超強力のチュチェ兵器

日増しに悪化している将来的な軍事的威嚇に対処して、より発展的かつ先進的であり、強大な兵器システムの開発を持続的に速く推し進めるのは、朝鮮労働党と政府の一貫した立場である。

国防科学部門の幹部と軍需工業部門の労働者たちは、2023年、チュチェ兵器の開発・生産において急速な跳躍を成し遂げることによって、国の国家防衛力、核戦争抑止力の強化で飛躍の全盛期を確実に開いた。

チュチェ兵器の開発・生産で収めた成果は、まず、国家戦略武力の重要構成部分となる新しい戦略兵器システムを開発・完成したことであった。

国防工業部門では、朝鮮労働党第8回大会が示した国防力発展5カ年計画の核心5大課題のうち、重要な戦略的意義を持つ核長距離打撃能力をさらに高度化する事業で大きな進展を遂げた。

共和国戦略武力の将来の核心主力手段、重大な戦争抑止力の使命を果たすべき新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—18」型の2回にわたる試射が成功裏に行われた。

4月13日に行われた新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—18」型の初の試射は、大出力固形燃料多段式エンジンの性能と段分離技術、様々な機能性制御システムの信頼性を確認し、新たな戦略兵器システムの軍事的効用性を評価することに目的を置いた。発射されたミサイルは朝鮮東海上に安全に着弾した。この試射を通じて、新型戦略兵器システムの全ての定数が設計上の要求に正確に達しており、新型大陸間弾道ミサイルがより軍事的効用性の大きい威力のある戦略的



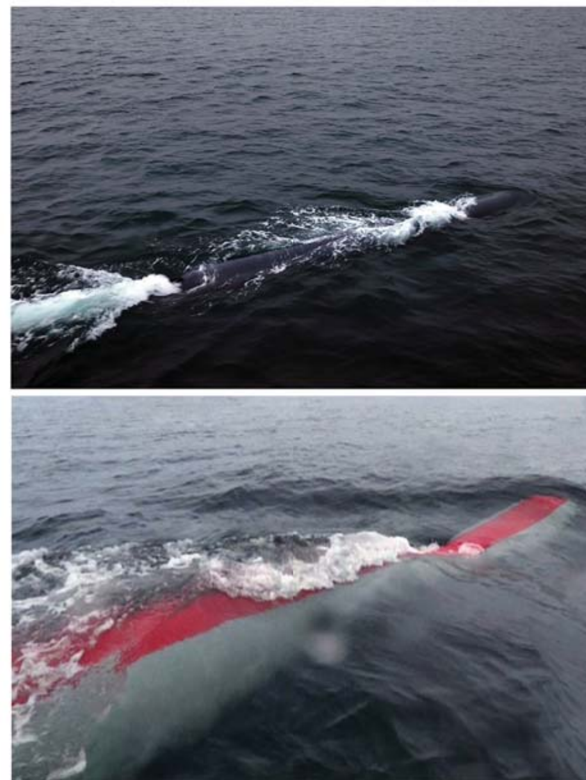
「火星砲—18」型の初の試射

攻撃手段になるという保証と信頼を得るようになった。

7月12日に行われた新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—18」型の2回目の試射は、最大射程体系での兵器システムの各系統別技術的特性を確認することに目的を置いた。発射されたミサイルは、朝鮮東海の公海上の目標水域に正確に着弾した。

国防工業部門では、水中核戦略兵器システムである核無人水中攻撃艇「ヘイル」も開発・完成した。

任意の海岸や港、または水上船舶に曳船して作戦に投入できる核無人水中攻撃艇は、隠密に作戦水域へ潜航し、水中爆発で超強力の放射能津波を起こして敵の艦船集団と主要作戦港を破壊・掃滅する威力のある水中核戦略兵器である。



水中戦略兵器システムの試験

3月に行われた核無人水中攻撃艇の潜航と戦闘部の水中爆発実験を通じて、全ての戦術技術的諸元と航行技術的指標が正確に評価され、信頼性と安全性が実証されて、致命的な打撃

能力が完璧に確認された。

国防工業部門では、重要な戦略的意義を持つ新型の中距離弾道ミサイル用大出力固形燃料エンジンを開発し、第1段エンジンの初の地上噴出試験を11月11日に、第2段エンジンの初の地上噴出試験を11月14日に成功裏に行った。第1段と第2段エンジンの初の地上噴出試験が成功裏に行われた結果、すでに確保された大出力固形燃料エンジン分野の設計及び製作技術力の信頼性と安全性が今一度はっきり実証され、新型の中距離弾道ミサイル兵器システムの開発を確実に推し進められる確固たる保証がもたらされた。

一方、核反撃想定総合訓練を通じて、国家核兵器総合管理システムである「核の引き金」の科学性と信頼性、安全性が検証された。

新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—18」型と核無人水中攻撃艇が開発・生産され、国家核兵器総合管理システムが完備された結果、国家の戦略武力はさらに進化した多角的かつ攻勢的な核攻撃能力をもって戦争を抑制し、平和と繁栄を揺るぎなく保証できるようになった。

チュチェ兵器の開発・生産で収めた成果はまた、武力装備の現代化、先端化において急速な進展を遂げたことである。

国防工業部門では、世界先端レベルの戦略無人偵察機と多目的攻撃型無人機を開発することによって、朝鮮労働党第8回大会が示した国防科学発展及び兵器システム開発5カ年計画の重要な課題を立派に遂行した。

「武力装備展示会—2023」で初めて公開された無人機は、祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式の際、金日成広場の上空で自己の技術的能力を最大に発揮しながら素晴らしい飛行機雲を引き、また、多目的攻撃型無人機に装着されたミサイルで地上目標を打撃する場面を、広場に設置された大型電光スクリーンを通じて全世界に公開した。

国防工業部門では、ロケット砲弾の操縦化、多用途戦闘装甲車の開発など多くの成果を収めた。

武力装備の現代化、先端化の飛躍的上昇を実証する実体が次々と誕生したことによって、現代戦に備えた人民軍の戦闘力の強化に実質的な転換をもたらすことのできる確固たる土台が築かれた。

チュチェ兵器の開発・生産で収めた成果は何よりも、日増しに高度化する国防科学技術力の強大な潜在力と現実性を世界にはっきりと示した。

国防科学部門では2022年に新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型を開発・完成し、ついで2023年には新しい戦略兵器システムである新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—18」型を開発し、核無人水中攻撃艇や戦略無人偵察機、多目的攻撃型無人機をはじめとする先端武力装備を開発・生産することによって、朝鮮の国防科学技術力の強大な潜在力と現実性を今一度実証した。

世界のメディアと軍事専門家は、100パーセント国産化された朝鮮の先端兵器システムの開発速度はめまいがするほど速まっている、液体燃料を利用する大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型が閲兵式での公開後25カ月ぶりに試射に成功したことと比べれば、大陸間弾道ミサイル「火星砲—18」型はその期間が5カ月で5分の1である、2回の実験だけで固形燃料を利用した大陸間弾道ミサイルの主要技術を検証したのは、予想を上回る急速な進展である、と驚きを隠せなかった。

祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式の際に朝鮮の無人機がその姿を現すと、ロシアのリアノボスチ通信、イギリスのロイター通信をはじめとする世界のメディアと軍事専門家は、朝鮮の新型無人機は米国の最新戦略資産である戦略無人偵察機「RQ—4」、無人戦闘攻撃機「MQ—9リーパー」とよく似ている、朝鮮は今回、悪天候の中でも

新型無人機を飛ばしたが、雨や突風による事故の危険が大きい状況でも低空飛行しながら最新技術力を誇示した、と評した。

チュチェ兵器の開発・生産で収めた成果は次に、敵対勢力に極度の不安と恐怖を抱かせ、国家興隆の新時代を切り開く全人民の闘争を力強く鼓舞・激励した。

朝鮮の国家防衛力、核戦争抑止力強化の全盛期を実証する威力的実体の出現は敵を極度の不安と恐怖に陥れた。

新型大陸間弾道ミサイルの試射は、米国とその追随勢力に揺るぎない朝鮮の圧倒的対応意志と物理的力の実体をはっきりと示し、共和国に対する軍事的選択の危険性と無謀さを確認させるための強力な行動的警告であった。

大陸間弾道ミサイル「火星砲―18」型を1回の試験で成功させることを目にした米国のメディアと専門家は、「『火星砲―18』型は監視偵察資産を利用してもミサイル発射兆候を事前に捕捉することが難しい。『火星砲―18』型の登場によって、米国と韓国のミサイル防衛システムは無力なものになった」「米本土のミサイル防衛政策に穴があいた。共和国の固形燃料大陸間弾道ミサイルは米国の主な憂慮事項になるだろう。共和国の今回の試射は核兵器能力における巨大な跳躍である」と評した。

われわれの水中戦略兵器システムの試験ニュースが伝わると、敵国のメディアは「『ヘイル』は一種の『核魚雷』、『戦術核の最終兵器』であり、その威力は『地球終焉の兵器』級に相当する」「探知が困難なステルス兵器」と、極度の危惧の念を持って分析に熱を上げた。

朝鮮の無人機開発に関しても、敵国のメディアと専門家は、朝鮮労働党第8回大会で無人機開発を戦略的課題として提示した後、わずか2年後に世界先端レベルの無人機が開発・完成されて実際の脅威として浮上した、戦略無人偵察機には、胴体の前部の下に合成開口レーダーと見られる映像収集装置が搭載され、無人戦闘攻撃機は翼当たり三つもの武装装着台が設置されて、翼当たり武装装着台が二つである米軍のものより優れている、と評した。

共和国戦略武力の核心主力手段である大陸間弾道ミサイル「火星砲―18」型から始まって非常な速度で絶えず開発された超強力チュチェ兵器は、2023年を偉大な転換の年、変革の年に輝かせるための闘争に立ち上がった全国の人民に信念と勇気を倍加させた。

核抑止力の絶え間ない発展ぶりから人民は、国家の強大な力と底力について改めて痛感し、社会主義の全面的発展の偉大な勝利とより強大かつ繁栄する祖国の未来を確信した。

祖国解放戦争勝利70周年慶祝閲兵式場では「勝利の閲兵式場を力強く行進した強大な国家防衛力の実体を見て感動を抑えることができなかった」「わが共和国の不敗の国力と強大な発展潜在力に対する確信が固くなった」「社会主義強国の洋々たる未来についてさらに確信した」という声が上がった。



む　す　び

朝鮮労働党中央委員会第8期第9回総会が2023年12月26日から30日まで行われた。

会議では、朝鮮労働党と人民が一致団結して収めた2023年の成果が誇り高く総括された。

2023年の闘争を通じて朝鮮人民は、予定していた5カ年計画実行の3番目の年度を単に経過しただけではなく、社会主義建設と国力強化の各方面で今後の前進速度を一層加速化する有利な条件と強固な足場を築く画期的な成果を成し遂げた。

2023年に人民経済全般では次のような大きな成果が収められた。

穀物は103パーセント、電力、石炭、窒素肥料は100パーセント、圧延鋼材は102パーセント、非鉄金属は131パーセント、丸太は109パーセント、セメント、一般織物は101パーセント、水産物は105パーセント、鉄道の貨物輸送量は106パーセントに遂行し、住宅は建設中の世帯数が109パーセントで、人民経済発展の12の目標が全て達成された。また、電動機は220パーセント、変圧器は208パーセント、ベアリングは121パーセント、電気亜鉛は140パーセント、鉛は121パーセント、紙は113パーセント、塩は110パーセント、化粧品は109パーセント、板ガラスは100パーセント、マグネシアクリンカーは104パーセントに増産したのをはじめ、経済全般で確実な生産の増大と計画規律の確立という進展をもたらした。

2023年の経済部門の総体的な成長規模を見ると、第8回党大会以前の2020年に比べて三和鉄は3.5倍、銑鉄は2.7倍、圧延鋼材は1.9倍、

工作機械は5.1倍、セメントは1.4倍、窒素肥料は1.3倍など重要指標の生産量が大きく成長し、国内総生産（GDP）は1.4倍に増えた。

総じて2023年は、国力の向上や国威の宣揚において、共和国の発展道程に大きな足跡を印した名実共に偉大な転換の年、偉大な変革の年であった。

これは、強靭な奮発力と果敢な努力で興隆・発展の新局面を力強く切り開いてきた人民の英雄的な闘争のたまものである。

朝鮮人民は今後も、朝鮮労働党の指導に忠実に従い、社会主義強国建設偉業を立派に遂行していくだろう。

変革の2023年

執　筆：朴錦順

編　集：卓成日、松進成

翻　訳：李鮮日、許京準

発　行：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社

発行日：2024年12月

ㄱ－ 240880245223

E-mail: flph@star-co.net.kp

http://www.korean-books.com.kp

　2023年は、朝鮮民主主義人民共和国の尊厳と国力が万邦に宣揚され、祖国の歴史に記される未曽有の奇跡的な成果が多発的にもたらされた偉大な転換の年、変革の年であった。

　2023年に朝鮮人民は、厳しい国難を忠誠と愛国の力によって頑強に乗り越え、社会主義建設の各分野で実際の成果を成し遂げた。




ISBN 978-9946-0-2376-2